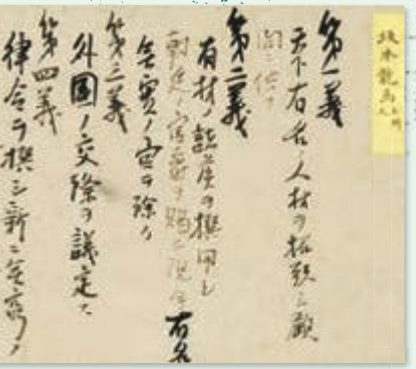
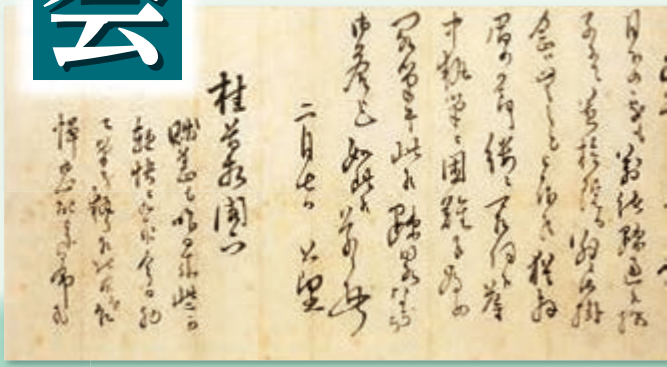
国立国会図書館
National Diet Library, Japan

議会開設百三十年記念

議会政治展示会

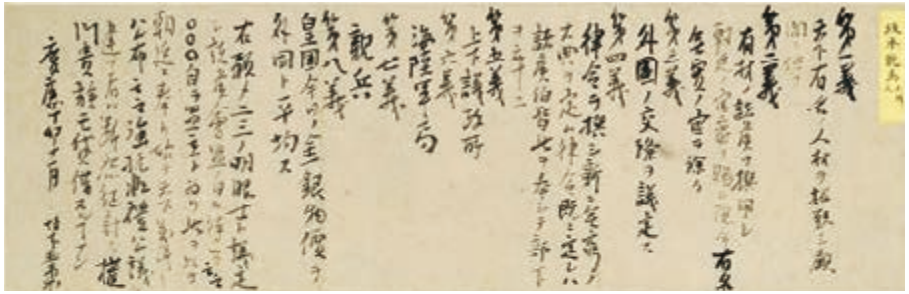




1 〔第１次仮議事堂　貴族院議場〕

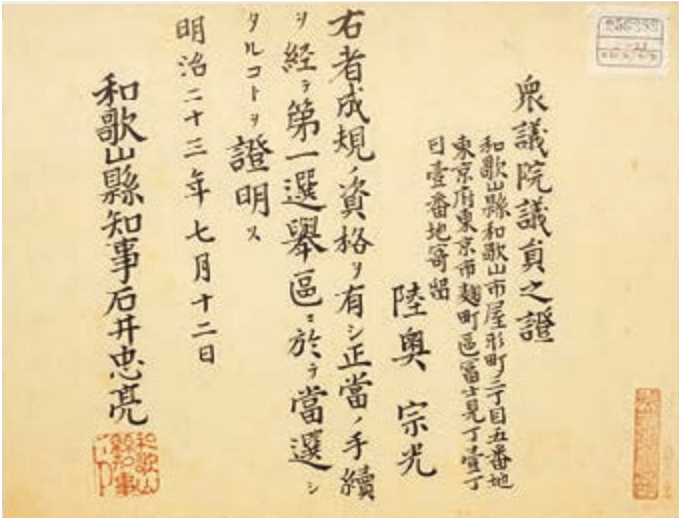
2 〔第２次仮議事堂　衆議院議場〕

（東京都写真美術館所蔵）



3　新政府綱領八策

17　大日本国会仮議事堂図

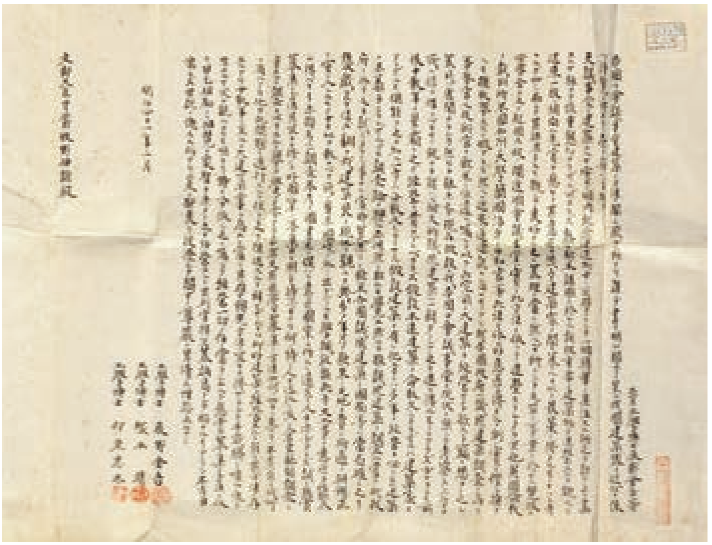


衆議院議員之証
和歌山縣和歌山市屋形町二丁目五番地
東京府東京市麹町區富士見丁壹丁
目壹番地寄留
陸奥　宗光
右者成規資格ヲ有シ正當ノ手續
ヲ經テ第一選擧區ニ於テ當選シ
タルコトヲ證明ス
明治二十三年七月十二日
和歌山縣知事石井忠亮

20　衆議院議員之証　和歌山県陸奥宗光

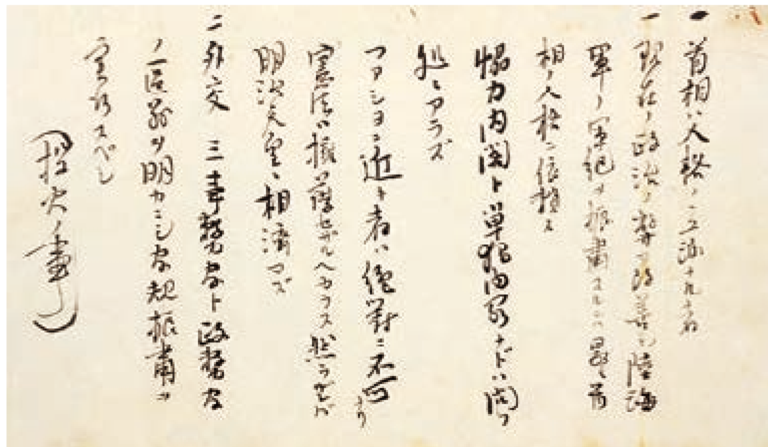
26　帝國議事堂炎上之圖

55　帝国貴衆両院写真画帖

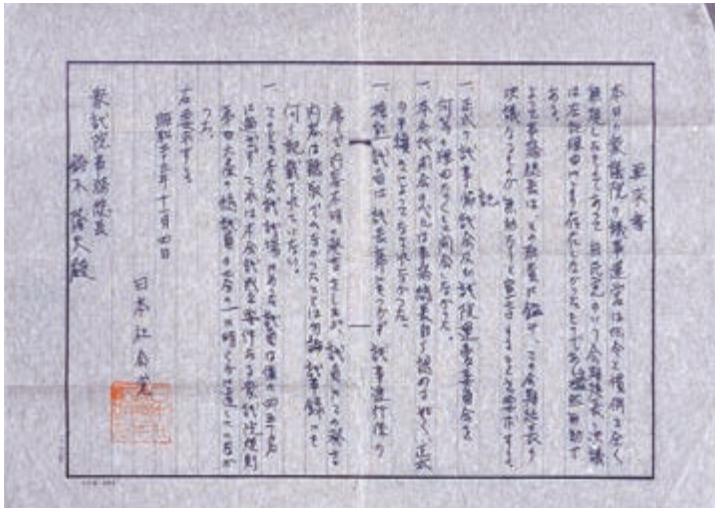


65〔意見書（議院建築の方法について）〕

80　帝国議会議事堂竣功記念　郵便切手郵便葉書　十一月七日より発売



85〔西園寺公望覚書〕



124　議事運営に関する社会党要求

135　新自由クラブ徽章、腕章、ペナント

128　池田首相所信表明演説　経済の部　草稿

151　ピゴットアルバム

第１次仮議事堂　（宮内庁書陵部所蔵）

第２次仮議事堂　『帝国貴衆両院写真画帖』より

第３次仮議事堂　『アサヒグラフ』1936 年 11 月 10 日〔臨時号〕より

議会開設百三十年記念

議会政治展示会目録

主催：国立国会図書館
期日：令和２年 12 月 10 日～ 23 日
場所：国立国会図書館東京本館 新館１階 展示室

議会政治展示会の開催に寄せて

本年は、明治 23 年 11 月 29 日に第 1 回帝国議会が開会してから 130 年の節目の年に当たります。

このことを記念して、国立国会図書館では、議会開設百三十年記念議会政治展示会を開催することといたしました。

全 9 章から成るこの展示会では、約 150 点の資料により、我が国の議会がどのように誕生し、現在まで発展してきたかを紹介することを試みました。国立国会図書館が所蔵する様々な資料に加え、衆参両議院事務局が保管する議事資料など、日頃直接お目にかけることが少ない資料を数々展示しております。この展示会が我が国の議会政治の歴史に思いを馳せる一助になれば幸いです。

最後になりましたが、この展示会の開催に際して各方面からお寄せいただきました御協力に対し、厚く御礼申し上げます。

令和 2 年 12 月 10 日

国立国会図書館長　吉永　元信

協力者御芳名（五十音順、敬称略）

石　橋　省　三　　下河邊　元　春　　堀　内　正　昭

あきる野市中央図書館　　宮内庁書陵部
憲政記念館　　国立公文書館
参議院事務局　　衆議院事務局
一般社団法人尚友倶楽部　　昭和女子大学図書館
東京都写真美術館　　一般社団法人日本建築学会図書館
米国メリーランド大学ゴードン W・プランゲ文庫

目　次

この展示会について…… 1
第 1 章　議会制度ができるまで…… 2
第 2 章　議会開会と仮議事堂の建築…… 7
第 3 章　国民の政治参加と政党政治の進展…… 11
（特設コーナー）貴重図面と写真帖にみる仮議事堂 …… 16
第 4 章　“白亜の殿堂”誕生：17 年がかりの議事堂建築 …… 21
第 5 章　議会の危機の時代…… 28
第 6 章　帝国議会から国会へ…… 32
第 7 章　55 年体制の成立と展開 …… 37
第 8 章　多党化の時代へ…… 41
第 9 章　国民に開かれた国会へ…… 45

凡　例

・解説は、国立国会図書館展示委員会議会開設百三十年記念議会政治展示小委員会が編集・作成した。
・【　】内に国立国会図書館請求記号・所蔵機関を記載した。
・国立国会図書館ホームページに掲載されているものは次の記号を付した。

史料　電子展示会「史料にみる日本の近代」（インターネット公開）
憲法　電子展示会「日本国憲法の誕生」（インターネット公開）
デジ　国立国会図書館デジタルコレクション（インターネット公開）
デジ送信　国立国会図書館デジタルコレクション
（図書館向けデジタル化資料送信サービスで利用可能）

電子展示会「史料にみる日本の近代」　https://www.ndl.go.jp/modern/
電子展示会「日本国憲法の誕生」　https://www.ndl.go.jp/constitution/
国立国会図書館デジタルコレクション　https://dl.ndl.go.jp/

この展示会について

我が国の議会政治は、制度や運営方法を変えながら連綿と続き、130年の歴史を刻んできました。

この展示会では、議会が歩んできた歴史を、近現代政治史における大きな出来事とともに、時代を追って9章に分けて紹介します。

今回は、これまでの議会政治展示会では余り取り上げてこなかった、国会議事堂建築の歴史にも光を当てています。議会政治を見守り続け、議会史のいわば陰の主役である議事堂にも、完成までに長い歴史がありました。

展示資料は、国立国会図書館憲政資料室で所蔵する、政治家や軍人などが遺した書簡、日記、各種書類を主体として、その他の当館の蔵書（図書や雑誌、貴重な錦絵など）、当館以外の機関から出陳していただいた図面、写真、模型など、バラエティに富んだものです。これらを用いて、議会政治や議事堂の歴史を様々な形で表すことを試みました。

どうぞお楽しみください。

1　130年前の議会 最初の国会議事堂 貴族院の本会議場　→ 口絵

明治23（1890）年11月竣工

当時著名な「早撮り」写真師・江崎礼二が撮影したもの。短命であった最初の議事堂（第1次仮議事堂）の内部を捉えた貴重な写真。

【東京都写真美術館所蔵】

2　第2次仮議事堂　衆議院議場　→ 口絵

明治24（1891）年10月竣工

【東京都写真美術館所蔵】

第1章　議会制度ができるまで

公議政体は幕末から構想されていたが、明治政府は、「五箇条御誓文」において広く会議を興すことを声明した。近代化を進める中で、公議所をはじめ議事機関の設置も試みられた。また、民衆の政治意識も高まり、自由民権運動が全国的に拡大、各地の民間政社により、国会開設・憲法制定の要求が行われた。その後、明治23（1890）年の議会開設が決定されて議事堂建築が始まるとともに、明治22（1889）年には大日本帝国憲法が発布された。

3　新政府綱領八策（坂本龍馬自筆）　→ 口絵

慶応3（1867）年11月

慶応3年10月、前土佐藩主山内豊信（容堂）の建白により、幕府から朝廷へ政権が返上された（大政奉還）。展示資料はその翌月に作成された、龍馬自筆の政体案（直柔（なおなり）は龍馬の実名）。内容は新政府における官制、法制、外交、議会制度などに関する提言で、大政奉還の建白書に通じる。

新政府綱領八策　慶応3（1867）年11月【石田英吉関係文書1-5】史料 デジ

4　幕末期の議会運営規則案

慶応3（1867）年12月（推定）

幕末期の議会運営規則案。上下両院の設置や諸藩以外からの人材登用を提案し、イギリス議会に倣う議席配置図を描く。明治文化研究者の尾佐竹猛（おさたけたけ）は、これを坂本龍馬、後藤象二郎、福岡孝弟（たかちか）らに近しい者が「新政府綱領八策」と同時期に起草したものと推定している。

議事院規則案　慶応3（1867）年12月【憲政資料室収集文書1116】

パネル

明治政府の基本方針

慶応4（1868）年3月

新政府軍と旧幕府軍との戦闘（戊辰戦争）が続く中、新政府は「御誓文」を作成。天皇が中心となって広く会議を興し、公論に基づく政治を行う旨を天地神明に誓う形式をとった。

五箇条御誓文 轍仁親王御筆　慶応4（1868）年3月【宮内庁書陵部所蔵】

5　明治政府の政治組織法

慶応4（1868）年閏4月

「五箇条御誓文」に基づき、太政官を中心とした官制を定めたもの。東洋古来の法制資

料に加え、アメリカ合衆国憲法や福沢諭吉の『西洋事情』などを参考に作成され、立法・行政・司法の三権分立や、官吏公選の考え方を取り入れている。

政体　慶応4（1868）年閏4月【CZ-211-04】デジ

6　公議所法則案　明治元（1868）年12月

明治政府の議事機関、公議所の運営規則集。「五箇条御誓文」（パネル参照）第1条「広ク会議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ」を制度として実現するため、慶応4（1868）年閏4月設置の議政官下局に次いで、明治元年12月に公議所の新設が決定された。

公議所法則案　明治元（1868）年12月【特70-369】デジ　【阪谷朗廬関係文書127-4】

7　公議所の議事録　明治2（1869）年3月

明治政府が発行。開設された明治2年3月から6月までの会議の記録を収め、版元の上州屋惣七から発売された。同年7月の官制改革により公議所が集議院に改称され終刊。

公議所日誌　明治2（1869）年3月【WB43-49】

8　公議所から集議院へ　明治2（1869）年8月20日

公議所から改称された集議院の運営規則集。明治2年8月20日制定。展示資料は9月に改正されたもの。規則の内容はおおむね公議所のそれを踏襲しているが、公議所が議員による議案提出権を有していたのに対し、集議院は政府提出の議案を審議する権能しかもたず、諮問機関的性格が強くなったとされる。

集議院規則　明治2（1869）年9月【WB43-52-2】【副島種臣関係文書 書類の部15】

9　民撰議院設立建白書（草稿三種）　明治7（1874）年1月

明治6年に征韓論をめぐる政変で下野した板垣退助らは、日本初の政党である愛国公党を結成し、「民撰議院設立建白書」を政府に提出した。起草者は英国帰りの古沢滋で、一部高官のみにより意思決定が行われている現状を批判し、国会を開設して世論を反映した政治を行うよう主張している。

〔民撰議院設立建白書草稿（三種）〕　明治7（1874）年1月【古沢滋関係文書13】史料 デジ

パネル
民撰議院設立建白書（政府への提出版）　明治7（1874）年1月

左院（明治初期における政府の立法諮問機関）に提出された民撰議院設立建白書。左院の機関紙的存在であった、ブラック（John Reddie Black）主宰の新聞『日新真事誌』に掲載されて広く知られることとなり、自由民権運動へとつながっていった。

民撰議院設立建白書　明治7（1874）年1月【国立公文書館所蔵】

10　立憲政体樹立の詔　明治8（1875）年4月14日

明治8年の大阪会議において、明治6年の政変で下野した板垣退助らと政府側の大久保利通・伊藤博文らとの間に合意が成立、漸進的に立憲政体に移行するという詔書が発せられた。展示資料はその草案。この詔は明治10年代の自由民権運動において、国会開設要求の根拠となった。

御詔勅草案　明治8（1875）年4月14日【伊藤博文関係文書（その1）書類の部47】史料 デジ

11　国会開設の要望書　明治13（1880）年4月

大阪会議後、板垣退助は旧愛国公党同志に呼び掛け、政治結社愛国社を設立した。愛国社は一時自然消滅するが、立志社により再興され、全国の政社が加盟する大きな結社に成長した。明治13年3月の愛国社の第4回大会では国会期成同盟が結成され、政府に国会開設の要望書を提出したが、受理を拒否された。

国会ヲ開設スル允可ヲ上願スル書・国会ヲ開設スル允可ヲ上願スル書副願
明治13（1880）年【河野広中関係文書 書類の部168・169】史料 デジ

12　頻発する農村での蜂起―自由民権運動の波及―
明治15（1882）年～明治17（1884）年

自由民権運動の影響下、政府のデフレ政策により困窮した農民が各地で蜂起し、激化事件と呼ばれた。展示資料は、特に大規模であった秩父事件（明治17年10月31日から11月9日までにかけ数千人が蜂起）の残党に関する報告書で、9月に起きた加波山事件で襲撃の対象となっていた、栃木県令三島通庸（みちつね）に提出されたもの。

秩父事件調査復命書　明治17（1884）年11月12日【三島通庸関係文書510-7】

パネル
ついに国会開設へ　明治14（1881）年10月12日

国会開設及び憲法の制定に関し、政府内では大隈重信らの急進派と伊藤博文らの漸進派が対立していた。開拓使官有物払下問題を理由に大隈らは政府を追放され（明治14年の

政変)、その翌日、欽定(きんてい)憲法の制定及び明治23年の国会開設を宣言する勅諭が出された。

国会開設之勅諭　明治14(1881)年10月12日【国立公文書館所蔵】

パネル

民間有志による憲法草案

明治14(1881)年(推定)

国会期成同盟の呼び掛けに応えて作成された私擬憲法の一つ。宮城県出身で、五日市町(現東京都あきる野市)の教員となり、同地の自由民権運動の中心的人物であった千葉卓三郎の起草。全部で204の条文があり、国民の権利に関する記述が充実している。

五日市憲法草案【あきる野市中央図書館所蔵】

13　大日本帝国憲法の草案

明治21(1888)年3月

憲法の起草は、伊藤博文らを中心に明治19年11月頃から開始され、井上毅(こわし)、ドイツの法学者レースラー［ロエスレル］(Karl Friedrich Hermann Roesler)らの案をもとに討議を重ねた。展示資料は明治21年3月に各条の検討結果を反映させ改めて浄写した草案で、表紙に「博文」の自署、文中に伊藤による修正、書き入れがある。

大日本帝国憲法(浄写三月案)

明治21(1888)年3月【伊藤博文関係文書(その1)書類の部233】史料 デジ

14　憲法発布式

明治22(1889)年2月11日

明治22年2月11日に行われた大日本帝国憲法発布式の様子を描いた3枚続きの大判錦絵。宮中正殿の玉座に明治天皇、その右手に皇后が座り、正面には黒田清隆首相以下諸大臣が整列している。天皇から首相に憲法を授ける欽定憲法の形式をとっている。

「憲法發布式之圖」 井上探景画　松木平吉　明治22(1889)年2月【寄別7-2-2-3】デジ

15　憲法発布に際しての黒田首相演説(超然主義の表明)

明治22(1889)年2月12日

憲法発布翌日の明治22年2月12日、黒田清隆首相が地方長官に対して行った演説の原稿。翌年に迫った議会開設の際に政府がとるべき態度として、「常に一定の政策」をとり、「超然」として政党の外に立つ、と全ての政党から一定の距離をとることを宣言した。

憲法発布ニ際シテノ黒田首相演説

明治22(1889)年2月【牧野伸顕関係文書 書類の部84】史料

16　予想された議事堂　その1

明治21(1888)年7月

第1次仮議事堂竣工(明治23年11月24日)前の明治21年に出版された石版画。架空の国会議事堂の前に、板垣退助、榎本武揚、大隈重信、勝海舟を思わせる4人が立つ(いずれも薩摩・長州以外の出身者)。発行者の荒川藤兵衛は江戸以来の版元山口屋藤兵衛。明治20年代には、名所の風景やニュース性のある出来事を描いた石版画(額絵)が盛んに刷られた。

「國會議事堂之圖」(『憲法発布式等之図』所収)

荒川藤兵衛画　荒川藤兵衛　明治21(1888)年7月【寄別7-5-1-5】デジ送信

17　予想された議事堂　その2 → 口絵

明治22(1889)年4月

第1次仮議事堂の予想図。完成の前年に発行されたため、中央には実際の建物にはない塔がある(資料58参照)。図の下には担当する技師、内部の構造、建築費などの情報が記されている。

大日本国会仮議事堂図　明治22(1889)年4月【憲政資料室収集文書1301】

18　れんが製造器の購入について、臨時建築局副総裁への手紙

明治19(1886)年6月26日

議事堂建築のために来日したドイツの建築家が、日本製れんがの製造法には改良が必要と指摘した。このことを知った実業家西村勝三が、ベルリンから三島通庸(翌月に臨時建築局副総裁に就任)に宛てた手紙。西村は耐火れんが製造工場の視察のために渡欧中で、自分が調べた仏独のれんが製造器などについての情報提供を申し出ている。

西村勝三書簡　三島通庸宛　明治19(1886)年6月26日【三島通庸関係文書234-1】

19　日比谷の仮議事堂

明治20(1887)年8月22日

日比谷に議事堂建設の報を受け、新道の建設や道幅の拡幅を提案する書簡。送り主町田実一は在漢口(清国)領事。井上馨臨時建築局総裁の下で議事堂を含む中央官庁の整備計画を担当していた三島通庸副総裁に宛てられたもの。

町田実一書簡　三島通庸宛　明治20(1887)年8月22日【三島通庸関係文書168-1】

第２章　議会開会と仮議事堂の建築

明治 23（1890）年に仮議事堂において第１回帝国議会が開かれた。これ以降、議事堂を舞台として、初期の議会では政府と野党である民党の対立が繰り広げられていたが、やがて両者の間に生まれた対立と提携という微妙な均衡の上に議会政治が展開され、明治 31（1898）年には初の政党内閣である第１次大隈重信内閣が誕生した。なお、明治 27（1894）年、日清戦争のため大本営が広島に置かれたことにより、この地の臨時仮議事堂で開かれた第７回帝国議会は、憲政史上唯一東京以外で開かれた議会である。

20　初の衆議院議員総選挙　→口絵　　明治 23（1890）年７月１日

明治 23 年７月１日に実施された第１回衆議院議員総選挙では、有権者は、直接国税 15 円以上を納めている満 25 歳以上の男性に限られ、総人口 3,990 万人の約１パーセントであった。展示資料は、地元の和歌山県第１区から出馬した陸奥宗光の当選証書である。

衆議院議員之証　和歌山県陸奥宗光
明治 23（1890）年７月 12 日【陸奥宗光関係文書 108-66】史料 デジ

21　貴族院議員の選出・任命　　明治 23（1890）年６～９月

貴族院については貴族院令に基づき議員が任命された。展示資料は、内閣の推薦により勅選された伊東巳代治の任命書である。その他、選挙なしに議席をもつ皇族議員・公侯爵議員、互選により選出される伯子男爵議員や多額納税者議員がいた。

辞令（貴族院令第一条四項ニ依リ貴族院議員ニ任ス）
明治 23（1890）年９月 29 日【伊東巳代治関係文書 書類の部 400-73】

22　選挙干渉を非難　　明治 25（1892）年５月

第１次松方正義内閣は、第２回帝国議会への対応に苦しみ、明治 24 年 12 月に初の衆議院解散に踏み切った。翌年の第２回総選挙で激しい選挙干渉を行ったため、続く第３回帝国議会でこれを非難する上奏案が出され、いったんは否決された。しかし、決議案（展示資料）として再提出の上可決され、のちに内閣が倒れる遠因となった。

選挙干渉上奏案・選挙干渉決議案・選挙干渉建議案始末
〔明治 25（1892）年〕【都筑馨六関係文書 274-1】

23　政費節減・民力休養　　明治 20 年代前半

議会開設当初から、民党と政府、衆議院と貴族院は衝突を繰り返した。展示資料では民党が主張すべき政治課題が 26 か条にわたって挙げられており、特に第１条の政費節減や第３条の地租節減は主な争点となった。

初期ノ国会ニ提出スヘキ問題草案【河野広中関係文書 書類の部 390】

24　初期の議会における召集日座席表

衆議院では当初、召集日には府県別の席次が割り当てられ、召集後に（正式な）議席が抽せんで決定された。第 21 回議会から議席は議長が党派別に指定するようになり、第 26 回議会から召集日の席次も党派別に割り当てられるようになった。展示資料は、第４回議会の召集日の席次表。犬養毅（つよし）、尾崎行雄、田中正造らの名が見える。

第四議会召集日議員席次表
〔明治 25（1892）年 11 月 22 日〕【河野広中関係文書 書類の部 1020】

パネル
25　天皇の大岡裁き　　明治 26（1893）年２月

建艦費削減をめぐり衆議院と政府が対立、衆議院は内閣不信任を上奏し、政府も天皇に対して、衆議院に和協を命ずるか衆議院解散かの裁断を仰いだ。天皇は両者に譲歩を求め、内廷費の一部を建艦費に充てる「三方一両損」的な詔勅を出すことで決着した。展示資料は詔勅の案。

「和協の詔勅」案　明治 26（1893）年２月【伊藤博文関係文書（その１）書簡の部 571】史料

26　１年経たずに炎上　→口絵　　明治 24（1891）年１月 20 日

明治 23 年 11 月 29 日に第１回帝国議会が開会したばかりの仮議事堂は、翌年１月 20 日未明、出火し全焼した。火災を鮮やかに描いてみせたのは浮世絵師小林清親（きよちか）。彼は１月 22 日の『東京日日新聞』に、煙突のみ数本残った無惨な姿も描いている。

「帝國議事堂炎上之圖」 清親画　井上吉次郎　明治 24（1891）年２月【寄別 7-2-2-2】デジ

27　仮議事堂焼失を伝える手紙　　明治 24（1891）年２月９日

仮議事堂焼失の経緯を書簡１枚目の中央に詳しく記す。守衛が漏電を発見し電灯会社も巻き込んで送電線切断を試みるも間に合わなかったこと、出火原因をめぐって電灯会社が

訴訟を提起したことなどが記されている。会期中のため、貴族院は華族会館（のちに帝国ホテル）に、衆議院は東京女学館（旧工部大学校）に仮議場を設けて活動を継続した。

宮島祝三書簡　宮島大八宛　明治24（1891）年2月9日【宮島誠一郎関係文書（所蔵）2103】

28　広島での第7回帝国議会開会　明治27（1894）年10月

日清戦争下の明治27年10月、大本営が置かれた広島で帝国議会臨時会が開かれた。憲政史上東京以外の地で議会が開催された唯一の例である。貴族院議員である青山小三郎は、開会の様子、日々の審議内容、出席議員などを日記に記している。

臨時会広島行日記〔明治27（1894）年〕【青山小三郎関係文書165】

29　広島臨時会に召集された自由党員たち　明治27（1894）年10月

広島に参集した自由党員の集合写真（旧蔵者の日記から10月21日に饒津（にぎつ）神社社頭で撮影と推定）。前列左から5人目には党総理の板垣退助の姿が見える。政府との対決姿勢を取ってきた各党は一転して臨時軍事予算の可決に協力し、第7回帝国議会は開会からわずか4日で終了した。

広島に於て開会せし軍国議会当時の自由党員の撮影〔明治27（1894）年〕【龍野周一郎関係文書353】

30　三国干渉　明治28（1895）年4月

日清戦争後、日本は清国から遼東半島を得るも、露独仏の3国はその放棄を勧告した。兵庫県舞子で療養中の陸奥宗光外相は広島の伊藤博文首相に電報で急ぎ意見具申、御前会議後、伊藤は舞子へ急行する。陸奥は緊迫した様子を回想録の「蹇蹇（けんけん）余録」に記す。結局日本は遼東半島を清国に返還した。

蹇蹇余録草稿綴　上・下　明治28（1895）年序【陸奥宗光関係文書66-2・66-3】史料 デジ

31　第2次仮議事堂と衆議院議員　明治30年代前半

第2次仮議事堂の前で撮影された衆議院議員の集合写真。一同正装しており、開院式等の式典時のものであろうか。中央3列目に当時の衆議院議長片岡健吉（明治31（1898）年5月16日～明治36（1903）年10月31日在任）が写る。

全衆議院議員写真（衆議院玄関前にて）【龍野周一郎関係文書355】デジ

32　衆議院内の勢力図　その1　明治29（1896）年5月

第9回帝国議会閉会後の衆議院の各党所属議員を示した図。進歩党結成に伴う党派の離合集散を反映している。赤字は元勲ないし藩閥有力者を指すと思われ、これらと政党人とが赤線や赤破線で接続されており、そのつながりが察せられる。

代議士政党所属地図〔明治29（1896）年5月〕【河野広中関係文書 書類の部1022】

33　衆議院内の勢力図　その2　明治32（1899）年11月

第13回帝国議会までの衆議院の各党党勢と党派の変遷をまとめたグラフ。自由党系（民党）と進歩党系（民党）、国民協会（吏党）という3派を軸に、議会開設直後の約10年間で多くの異動があったことが知られる。

衆議院議員一覧表　明治32（1899）年11月【河野広中関係文書 書類の部540】

31　全衆議院議員写真（衆議院玄関前にて）

第3章　国民の政治参加と政党政治の進展

明治33（1900）年に立憲政友会が結成され、政党の力は増大し、翌年以降、桂太郎（陸軍大将）と西園寺公望（同党総裁）が交代で政権を担当する桂園時代が10年余り続いたが、大正初年に起きた第1次護憲運動によって、第3次桂内閣が倒れることで終わりを迎えた。この「大正政変」は、国民の政治参加への意欲と政党の台頭を印象付けた。大正7（1918）年には初の本格的な政党内閣である原敬内閣が成立、さらに大正14（1925）年には、男子普通選挙制度も実現した。以後、本格的政党政治の時代を迎えた。

34　桂園時代の情意投合の手紙　　明治44（1911）年2月7日

山県有朋閥の勢力を背景にもつ第2次桂太郎内閣（明治41年7月成立）は、当初各政党から等しく距離を置く態度を取ったが、第27回帝国議会を乗り切るため、明治44年1月に「情意投合」と称して立憲政友会との妥協を図った。同党総裁の西園寺公望は桂に対し、これを「実に時機を得たるもの」と評する手紙を送った。

西園寺公望書簡　桂太郎宛　明治44（1911）年2月7日【桂太郎関係文書 47-30】史料 デジ

35　桂園時代を揺るがす増師問題　　大正元（1912）年12月5日

2個師団増設をめぐって陸軍との対立が生じた第2次西園寺公望内閣は、上原勇作陸軍大臣の単独辞職が引き金となって倒れた。このことが憲政擁護運動の契機となり、最終的に桂園時代の終焉をもたらすこととなる。展示資料には、増師の施行と陸海軍の予算整理について、山県有朋の意見が示されている。

山県有朋書簡　桂太郎宛　大正元（1912）年12月10日【桂太郎関係文書 70-149】

36　大正政変　　大正2（1913）年2月11日

大正元年12月に天皇の補佐役である内大臣から首相となった桂太郎は、これを宮中・府中の別を乱す行為として批判を強める議会に対し、政争緩和に関する詔勅を盾に封じ込めにかかった。憲政擁護運動が巻き起こる中、民衆からも藩閥・軍閥を象徴する桂への非難が激化し、桂は退陣を余儀なくされた。

「二月十日桂非立憲内閣の対議会策を見んとて衆議院に蒐集せる群衆」
『歴史写真』第1乃巻 第4月號　歴史写真会　大正2（1913）年【408-99】デジ

37　2大政党体制を呼び込んだ桂新党　　大正2（1913）年2月28日

桂園時代以来自らの政党の必要性を感じていた桂太郎は、大正2年2月に立憲同志会を組織した。桂は4月には病床に伏し10月10日に死去するが、加藤高明が総理に就いて正式に結党し、立憲政友会とともに大正時代の2大政党体制を形作る契機となった。

立憲同志会大懇親会ニ於ケル桂太郎演説要旨〔大正2年2月28日〕【桂太郎関係文書 108-6】

38　初の本格的政党内閣　　大正7（1918）年9月

大正7年9月、超然内閣を率いた寺内正毅に代わり、立憲政友会総裁の原敬に大命が下った。このいきさつについて、元老山県有朋らの下を行き来し情報収集や連絡役をしていた松本剛吉は日誌に子細に記している。原は衆議院に議席を持つ初の首相として、閣僚の大半を政友会員で構成した。

政治日誌　壱巻　大正元年7月31日－大正10年2月27日【松本剛吉関係文書 38】

36　二月十日桂非立憲内閣の対議会策を見んとて衆議院に蒐集せる群衆

パネル
39　平民宰相　　大正 7（1918）年 9 月 29 日

前日の原敬内閣成立を告げる新聞記事。犬養毅立憲国民党総理は原敬が藩閥出身でないことを理由に「平民宰相の出でたるは実に結構」と評する一方、曾我祐準（すけのり）枢密顧問官は南部藩で高禄を得た家柄の原を、藩閥出身者よりもむしろ「門地の高い人」と談じている。

犬養毅ほか談「新内閣評」
『読売新聞』第 14903 号　大正 7（1918）年 9 月 30 日朝刊　読売新聞社【Z81-16】

パネル
40 「特権内閣」対「護憲三派」　　大正 13（1924）年

大正 13 年 1 月 7 日、第 2 次山本権兵衛内閣の後継として、貴族院に基盤を持つ清浦奎吾が組閣した。清浦奎吾内閣を「特権内閣」と批判する憲政会・立憲政友会・革新倶楽部は提携して倒閣に動いた。第 15 回総選挙ではこれら「護憲三派」が勝利し、加藤高明憲政会総裁が首相となり政党内閣に復した（6 月 11 日成立）。

清浦内閣　大正 13（1924）年 1 月【小橋一太関係文書 写真 18】

41　議会の現状　　昭和 4（1929）年 3 月 21 日

政党政治の進展に伴って政党間の争いも激しさを極め、しばしば議会の混乱をもたらした。野党である立憲民政党総裁の浜口雄幸は、多数の議員が告発された選挙区制案審議中の乱闘騒ぎについて、「議会の信用と議員の品位との為頗（すこぶ）る遺憾」と日記に残している。

日記　昭和 4（1929）年【浜口雄幸関係文書 2】

42　議会浄化　　昭和 6（1931）年 2 月 11 日

浜口雄幸内閣総理大臣は政治家としての半生を綴った随筆で「議会の近状」に一節を割き、言論の府であるはずの議会で種々の暴力が頻発する有様に国民が失望し、議会政治に冷淡になりつつある中で、院内からも自省の動きが現れていることを語っている。後年の「議会振粛」といわれる信頼回復に向けた動きの予兆がうかがえる。

随感随録【浜口雄幸関係文書 5】デジ

パネル
43　普通選挙運動の広がり　　大正 8（1919）年～大正 9（1920）年頃

大逆事件（明治 43（1910）年）ののちに一度下火になった普通選挙運動は、大正 7 年の米騒動などを契機として再燃した。政治家やジャーナリストに加え、学生団体や労働団体などの大衆が参加する大規模なデモや集会が、全国で連日のように開催された。

〔普選関係言論および運動概況調査綴〕〔大正 8 ～ 9 年〕【小橋一太関係文書 217-2】デジ

44　普通選挙への願い　　大正 9（1920）年 2 月 22 日

大正 9 年 1 月、普通選挙制度実現に向けた共闘のため、全国から数十に及ぶ団体の参加を得て、全国普選連合会が結成された。展示資料は、普選案の衆議院本会議での審議を控え、東京市内の芝公園で行われた普選大懇親会で、憲政会の河野広中が読み上げた決議文。

全国普選連合会決議
大正 9（1920）年 2 月 22 日【河野広中関係文書 書類の部 649】史料 デジ

45　普通選挙法案通過　　大正 14（1925）年 3 月 29 日

大正 14 年 3 月、加藤高明内閣の下で普通選挙法が成立。納税額にかかわらず、満 25 歳以上の男子に衆議院議員選挙権が与えられることとなった。昭和 3（1928）年 1 月、第 54 回帝国議会冒頭での衆議院解散を受け、同法に基づく初の総選挙が行われた。

『写真通信』16 巻 3 号（169）　大正通信社　昭和 3（1928）年 3 月【雑 53-16】デジ送信

パネル
46　治安維持法の公布　　大正 14（1925）年 4 月 22 日

男子普通選挙法の公布の直前に、治安維持法が公布された。国体の変革又は私有財産制度の否認を目的とする活動を禁じるもので、主に共産主義運動の取締りを目的としていた。初の普通選挙後の昭和 3（1928）年 6 月には緊急勅令により、極刑に死刑が当てられるなどの改正が行われた。

『官報』第 3797 号　大正 14（1925）年 4 月 22 日【CZ-2-2】デジ

47　選挙の心得　　昭和 3（1928）年

普通選挙法に基づく初の国政選挙を控え、内務省が有権者に配布したもの。選挙は国民が政治に参与する貴重な機会であると説き、公正な投票行動を促す一方で、被選挙者として立候補する際の要件や手続、選挙運動に係る制限事項についても説明している。

選挙の心得　昭和 3（1928）年【憲政資料室収集文書 1312-11】史料 デジ

パネル
各党選挙本部の様子　昭和3（1928）年2月

普通選挙法に基づく初の国政選挙では、立憲民政党、立憲政友会をはじめとする既成政党のほか、民衆運動を展開していた労働者や農民、知識人などが新たに政党を結成し、労働農民党、日本労農党、社会民衆党などの無産政党が候補者を擁立した。

『写真通信』16巻3号（169）　大正通信社　昭和3（1928）年3月【雑53-16】デジ送信

48　尾崎行雄の演説「普通選挙について」　昭和3（1928）年

普通選挙法の成立に尽力した尾崎行雄が、同法に基づく初の総選挙を前に作成した演説レコード（展示資料はこれをデジタル化したもの）。第54回帝国議会の解散を違法と批判し、全国人民は国家と自身の利益になる投票行動をとるよう求めている。

尾崎行雄　演説：普通選挙について（五）　コロムビア（戦前）　昭和3（1928）年【歴史的音源】デジ

パネル
選挙当日の様子　昭和3（1928）年2月20日

初めての普通選挙においては、立憲政友会の田中義一内閣が絶対多数を目指して選挙干渉を行ったにもかかわらず、同党217議席、立憲民政党216議席と2大政党が拮抗する結果となり、また新興の無産政党も合計8議席を獲得した。

『写真通信』16巻4号（170）　大正通信社　昭和3（1928）年4月【雑53-16】デジ送信

パネル
第1回普通選挙ポスター　昭和3（1928）年

男子普通選挙法の施行に伴う有権者数の増加や、戸別訪問の禁止など選挙運動に関する規則の変更を背景に、選挙ポスターが積極的に採用されるようになった。 政党及び候補者個人のポスターに加え、選挙そのものをアピールするポスターも作成された。

『第一回普選と選挙ポスター：昭和初頭の選挙運動に関する研究』（慶應義塾大学法学研究会叢書85）
玉井清著　慶應義塾大学法学研究会　平成25（2013）年【AZ-257-L6】

特設コーナー
貴重図面と写真帖にみる仮議事堂

明治19（1886）年、内閣に臨時建築局が置かれ、議事堂建築の本格的な検討が始まった。総裁に就任した外務大臣の井上馨は、不平等条約の改正交渉を見据え、ドイツのエンデ・ベックマン建築事務所に議事堂建築を含む官庁集中計画の作成を託した。同事務所では、同年と翌年にベックマン（Wilhelm Böckmann）とエンデ（Hermann Ende）が各々来日し、議事堂の設計図を日本政府に提出した。しかしながら、予算不足や条約改正交渉不調による井上の失脚もあり、本格的な議事堂に代えて仮議事堂が建築された。仮議事堂の時代は3代50年近くに及ぶこととなったが、その建築や本会議場などの造りには時々に応じた変化があった。このコーナーでは、着工時の構想を全貌できる貴重な図面や様々な議会の日常が垣間見える写真帖からのショットによって仮議事堂の時代を振り返る。

第1次仮議事堂

麹町区内幸町　第1回帝国議会
建築期間：明治21年6月～明治23年11月
工費：233,868円
設計：アドルフ・シュテークミュラー［ステヒミュレル］（Adolph Stegmüller），
吉井茂則

49　第1次仮議事堂平面図

展示資料は、部屋割りが寸法とともに記載され、着工前後時点の図面と推測される。和洋折衷の外観を有するエンデ・ベックマン事務所の設計案は採用されず、日本政府に雇用され滞日中のシュテークミュラー（同事務所所属）と内務省技師の吉井茂則が設計を担当したが、平面図は同事務所のものが大枠で継承されたと見られる。

「国会仮議事堂階下之図」「国会仮議事堂階上之図」
〔明治20（1887）年10月頃～明治21（1888）年6月頃〕【昭和女子大学図書館所蔵】

50　建設会社による第１次仮議事堂の図面の復元

第１次仮議事堂は落成２か月にして焼失（資料 26・27 参照）。展示資料は、株式会社大林組のプロジェクトチームが、当時の雑誌掲載の図面や僅かな写真を手掛かりに、平面図や立体図の復元に取り組んだ成果を示したもの。

特集「議事堂」『季刊大林』第 22 号　1985 年 12 月
大林組コーポレート・コミュニケーション室【Z11-1086】

51　初めての帝国議会に臨む議員の肖像　明治 23（1890）年

『改進新聞』2354 号附録　衆議院議員肖像第５号
明治 23（1890）年 12 月 10 日【憲政資料室収集文書 1356-4】

第２次仮議事堂
麹町区内幸町　第２～ 50 回帝国議会（第７回を除く）
建築期間：明治 24 年４月～ 10 月
工費：229,424 円
設計：吉井茂則 , オットカー［オスカール］・チーツェ（Ottokar［Oskar］Tietze）
（妻木頼黄参画説あり）

52　第２次仮議事堂平面図

第２次仮議事堂の図面。１階に本会議場、部属室、議長室、両院協議室、会食室等。２階に委員室、大臣室等。土台、小屋組みを継承する点で第１次仮議事堂の系譜をひくが、採光や音響効果のため、本会議場をガラス天井にし、防火鉄壁を設けるなどの相違もあった。また、貴衆それぞれの玄関口も設けられた。

「帝国議会議事堂之図」【衆議院憲政記念館所蔵】

53　第 28 回帝国議会・衆議院本会議場の様子（第２次仮議事堂）

明治 45（1912）年１月 23 日

傍聴席や記者席まで見渡せる珍しい写真。演説者として西園寺公望首相の姿も見える。

〔第 28 回帝国議会写真〕
小川一真（撮影）〔明治 45（1912）年１月 23 日〕【小川平吉関係文書 2024】　＊令和２年 11 月 19 日公開

54　衆議院の勤続 25 年記念絵葉書　大正３（1914）年（推定）

代議士生活 63 年に及び議員勤続年数最長記録を樹立することとなる尾崎行雄をはじめとする７名の議員と第２次仮議事堂が写る。

〔衆議院勤続表彰記念絵葉書〕【河野広中関係文書 書類の部 1614】

55　貴族院書記官長時代の柳田国男（於 第２次仮議事堂貴族院書記官長室）→ 口絵

大正６（1917）年

日本民俗学の創始者として高名な柳田国男の貴族院書記官長時代の執務室での１枚。柳田は大正３年４月～大正８年 12 月、第４代貴族院書記官長の任にあった。

『帝国貴衆両院写真画帖』東京タイプ社　大正６（1917）年【個人蔵】

第３次仮議事堂
麹町区内幸町　第 51 ～ 69 回帝国議会
建築期間：大正 14 年９月～ 12 月
工費：1,599,974 円
設計：営繕管財局

56　第３次仮議事堂の竣工記念の写真集　大正 14（1925）年

大正 14 年９月 18 日に第２次仮議事堂が焼失したため、急きょ新しい仮議事堂が建設された。この第３次仮議事堂の竣工を記念して、前議事堂の火災の様子、新議事堂建築途中から竣工時の姿や同年 12 月 22 日の落成式の写真を収めたものである。

『帝国議会仮議事堂建築記念』　光明社　大正 14（1925）年【YQ2-1621】デジ送信

57　第３次仮議事堂での人々の様子　昭和 11（1936）年（推定）

仮議事堂が役割を終える昭和 11 年と推測される写真を中心に収めたもので、建物だけではなく人物も大勢写っている。首相の施政方針演説をはじめ議場や委員会室での議事の様子、傍聴人の列や事務局職員の執務の様子なども含まれている。

『仮議事堂記念写真』
〔衆議院〕〔昭和 11（1936）年又は昭和 12（1937）年〕【YKA11-19】

58　第１次仮議事堂 模型　　明治 23（1890）年 11 月（竣工）

諸種の図面や史料をもとに貴族院本会議場部分を推定復元。

小屋組は、明治時代のわが国において「ドイツ小屋」と呼ばれていた構法に倣い、外壁はドイツ下見板張の仕様で再現した。屋根は場所により、スレートと瓦で葺（ふ）き分けられたと推測され、赤れんがの煙突が突き出す。当初の図面によると中央に尖塔（せんとう）も計画されていたが、着工後に塔の設置は省かれた。

〔第１次仮議事堂 模型〕
縮尺：1/50
製作：昭和女子大学堀内正昭研究室
【昭和女子大学堀内正昭研究室所蔵】

58　第１次仮議事堂 模型

広島臨時仮議事堂

広島市基町第５師団練兵場一隅　第７回帝国議会
建築期間：明治 27 年９月～ 10 月
工費：25,114 円
設計：妻木頼黄

59　広島臨時仮議事堂 模型・平面図　　明治 27（1894）年 10 月（竣工）

建築家・妻木頼黄（つまきよりなか）の設計・監督に係る広島臨時仮議事堂の貴族院本会議場。９月 22 日に広島行きを内務省から命じられた妻木は 26 日には設計を仕上げ、９月 30 日に着工、第７回帝国議会が召集される前日の 10 月 14 日に工事が完了した。

議長室を両院共用とするなど簡略化した間取りながら、玄関口に続く中央通路の突き当りに便殿、供奉室、大臣控所を配し、正面向かって右に貴族院、左に衆議院議場を構え、貴族院側に玉座を設けた。壁面は「陣屋幕」を模して横縞模様とした紺と白の布地で覆うとともに、小屋組の大半を露出させ、天井板も布張りとした。なお、屋根は木の板を重ねた柿葺（こけらぶ）きで、雨音が議場に響かないようにその上に茅（かや）を葺いた。

〔広島臨時仮議事堂 模型〕
縮尺：1/50
製作：昭和女子大学堀内正昭研究室
【昭和女子大学堀内正昭研究室所蔵】
〔広島臨時仮議事堂 立体図〕
製作：昭和女子大学堀内正昭研究室
（製作時参考：広島仮議事堂平面図『建築雑誌』107 号）
【昭和女子大学堀内正昭研究室所蔵】

広島臨時仮議事堂　『帝国議会議事堂建築報告書〔本編〕』より

第 4 章　“白亜の殿堂”誕生：17 年がかりの議事堂建築

現・国会議事堂は大正 9（1920）年に着工、竣工までに 17 年もの歳月を要したものである。議事堂を永田町に置くことが政府内で決まったのは明治 20（1887）年 4 月であったとされる。しかし、ドイツ人建築家の構想に基づく本格的な“本”議事堂を建てる計画は頓挫、日比谷の“仮”議事堂時代は実に 50 年近くに及んだ。その間も、調査会などにおける議論は断続的に行われ、地道な石材調査、土地取得なども進められた。デザインの一般競技をめぐる建築界の論戦など紆余曲折を経て、昭和 11（1936）年竣工の現在の議事堂がある。

60　議会の所在地に永田町が選ばれた理由　　明治 19（1886）年 5 月

議事堂を置く場所として永田町が秀でている理由を述べた文献。文中にある「フリマン」は当時議事堂を含む官庁集中計画を立案していたドイツ人建築家ベックマンを指すと考えられる。永田町を本格的な議事堂を置く場所とすることは、その後、明治 20 年 4 月の閣議で定まったとされる。

「雑報　国会議事堂」『東京輿論新誌』239 号
嚶鳴社　明治 19（1886）年 5 月【雑 54-107】デジ送信

61　最初の議事堂の設計案　　明治 19（1886）年～明治 20（1887）年

明治 19 年に来日したエンデ・ベックマン事務所のベックマンが構想を練り、その帰国後に同事務所が作成した議事堂の最初の設計案。翌年に来日したエンデが持参したが、本格的な議事堂建築が見送られたこともあり、この案が実行に移されることはなかった。

“Architekten”Ende/Bockmann,（「妻木文庫」）より“KOKUKUWAI GIJIIN, SHOMENDZU”及び“KOKUKUWAI GIJIIN, JIYEDZU”【日本建築学会図書館所蔵】

62　明治の官庁集中計画　　明治 19（1886）年 5 ～ 6 月

ベックマンが明治 19 年に来日した際に作成した官庁街計画の案で、展示資料は当時の写真技術（鶏卵紙）を用いた複製である。東を上にした図で、国会議事堂の建設予定地は図の下方の中央付近、現在と同じ永田町に書かれている。

『官庁街計画図』エンデ＆ベックマン（「妻木文庫」）【日本建築学会図書館所蔵】

63　議事堂の建築はいかにあるべきか　　明治 24（1891）年

当時貴族院書記官長だった金子堅太郎が、理想の議事堂建築について、歴史・文化の象徴性から音響効果、座席の配置や必要な設備まで、多角的に論じたもの。提唱されているもののうち、外国の事例の研究や設計案の公募などは、後年実現されることになる。

『議院建築意見』金子堅太郎 著　金子堅太郎　明治 24（1891）年【18-241】デジ

64　議事堂建築ニ関スル建議案（横井時雄外 3 名提出）　　明治 39（1906）年 3 月

第 2 次仮議事堂の老朽化により、3 か年計画で修繕が予定されていたが、修繕を経ても 10 年程度しか耐久性がないとの見通しにあった。展示資料は、そのような見通しを基に、“本”建築を行いたいとの衆議院の建議案（「可決（報告通）」と墨書にて記載）。委員会では、我が国の立憲政治が「大磐石」であることを示すためにも「雄大壮麗」な永久に耐える議事堂の建築が必要との趣旨が説明されている。明治 43 年 5 月には大蔵省に議院建築準備委員会が設置された。

第 22 回帝国議会議事堂建築ニ関スル建議案
第二十二回帝国議会衆議院議決議案原本　下巻【衆議院事務局所蔵】

65　高名な建築家からの議事堂建築への意見　→ 口絵　　明治 41（1908）年 2 月

議院建築の準備は、建築学界の関心事でもあった。当時を代表する高名な建築家 3 名が文部大臣に提出した意見書。議事堂の建築を「一国精華ノ集注スル所」であるとした上で衆智を集めて広く懸賞競技を行うべきだと述べる。

〔意見書（議院建築の方法について）〕
辰野金吾・塚本靖・伊東忠太　明治 41（1908）年 2 月【牧野伸顕関係文書書類の部 C80】

66　議院建築調査費についての衆議院議長による要望　　明治 43（1910）年 2 月（推定）

明治 43 年 2 月 1 日の衆議院各派交渉会で、議院建築の調査費用について話し合われ、長谷場純孝（はせばすみたか）議長から大蔵大臣を兼務する桂太郎首相に追加予算を提案することになった。展示資料は、同議長の依頼により、大浦兼武農商務大臣が議院建築調査費確保の件を桂首相に伝える書簡。

大浦兼武書簡　桂太郎宛〔明治 43（1910）年 2 月〕【桂太郎関係文書 44-5】

67　海外の議事堂の調査

議事堂の建築にあたっては、海外の事例も参考とされた。著者の大熊喜邦は明治40年代から大蔵省で議事堂建築の調査、設計に携わっていた。展示資料は、海外の議事堂について、本会議場の勾配、照明、音響の効果などの様々な研究の成果をまとめたもの。

『世界の議事堂』大熊喜邦著　洪洋社　大正7（1918）年【365-142】デジ

68　木材や石材の基礎的な調査　明治42（1909）年度～明治45（1912）年度

議事堂には、24種の木材、内外装に約40種（377,926切）の石材が用いられている。国産の材料を使う方針の下に集められた88種の樹種に上る各地の木材標本や1,200点にも上る石材標本は関東大震災により灰燼に帰したが、調査の成果が多様な石材や木材の使用につながった。

「第1編木材之部」『建築用本邦産木材及石材』
大蔵省臨時建築部編　建築世界社　大正3（1914）年【342-480】デジ

69　議院建築調査会による議論の本格化　大正6（1917）年9月11日

大正6年に大蔵省に設置された議院建築調査会においては、部屋割りについても詳細な議論が交わされた。展示箇所は、当時貴族院書記官長であった柳田国男が図書館や書庫の面積を広げるよう強く要求する部分と部屋数の案。

『議院建築調査会報告書』大蔵大臣官房臨時建築課〔編〕
大蔵大臣官房臨時建築課　大正7（1918）年【368-18】デジ
『議院建築調査会報告書附属議事速記録』大蔵大臣官房臨時建築課〔編〕
大蔵大臣官房臨事建築課　大正7（1918）年【368-18】デジ

70　議院建築の意匠の懸賞図案　大正9（1920）年

本建築のための議院建築意匠設計の応募には118案が集まった。第1次審査（大正8年2月締切り）では20案が当選とされ、第2次審査（同年9月締切り）では1等、2等、3等（1席・2席）が定まった。第1等（宮内省技手・渡邊福三）らの当選図案は参考とされたが、実際の設計は大蔵省の外局である営繕管財局が担った。なお、長年コンペ方式（懸賞競議）を主張した建築家・辰野金吾（資料65参照）は審査委員を務めたが、スペイン風邪により第1次当選発表の直後に死去した。

『議院建築意匠設計競技図集』洪洋社編　洪洋社　大正9（1920）年【422-13】デジ

71　意匠設計懸賞への応募　大正7（1918）年9月

応募希望者には募集規程のほか、設計に用いる各種図面（敷地測量図や間取略図）が配布された。応募者名を伏せて審査するため、提出する設計図などには、氏名の代わりに暗号を記すよう規定されている（①）。氏名は同じ暗号を表記した別の封筒（②）に収めて提出された。

議院建築意匠設計懸賞募集規程【衆議院憲政記念館所蔵】

72　当選作決定後の反対論　大正10（1921）年頃

建築家・下田菊太郎による議事堂の図案。下田は紫禁城風の屋根など独特の意匠を提案し、その意見を請願として議員を通じて議会に提出するなど、図案やその後のデザインをめぐり反対運動を行った。

帝国議院建築設計ヲ変更スベキ理由・下田菊太郎名刺・デッサン図【大木操関係文書38】

73　議院建築の敷地予定図　大正10（1921）年頃

「議院建築予定敷地地形図」『営繕管財局営繕事業年報』第1輯（大正14年度）
営繕管財局編　営繕管財局　昭和9（1934）年【14.5-403】デジ

74　俳人・高浜虚子が見た議事堂の建築風景　昭和2（1927）年3月22日

昭和2年に『東京日日新聞』で連載された『大東京繁昌記』は、当時の著名作家らが東京各所の風景をテーマに寄稿したものである。丸の内を担当した虚子は、関東大震災からの復興半ばの街の向こうに議事堂の鉄骨を眺め、「何となく心強いやうな感じがする」と書き記した。

高濱虚子「丸の内」『大東京繁昌記　山手篇』
東京日日新聞社〔編〕　春秋社　昭和3（1928）年【578-192】デジ送信

現・議事堂

麹町区（現千代田区）永田町　第70回帝国議会～国会（現在）
建築期間：大正9年1月～昭和11年11月
工費：25,735,977円
設計：営繕管財局［懸賞図案を参考とする］

75　議事堂の落成式　昭和11（1936）年10月10日

新議事堂の落成式は昭和11年11月4日から1週間かけて豪華に執り行われた。4日の修祓式（使用前のお祓いの儀式）に始まり、5日に天皇行幸、7日に竣功式と祝賀会、そして9日、10日には関係者1万5千人による参観が行われた。展示資料は、行幸や祝賀会の次第などである。

新議事堂落成式案内状　他　昭和11（1936）年10月10日【松本学関係文書350】

76　議事堂の竣工記念誌　昭和11（1936）年11月

仮議事堂時代から現在の議事堂完成までの紆余曲折がまとめられている。技術の粋を集めた設備や意匠、建築素材の産地なども誇らかに紹介されており、竣工を迎える興奮を伝えている。竣功式の出席者等に配布され、昭和天皇にも桐箱に納めて献上された。

『帝国議会議事堂建築の概要』
大蔵省営繕管財局〔編〕　昭和11（1936）年【大木操関係文書36】

77　議事堂竣工記念の絵葉書　昭和11（1936）年

絵はがき類〔昭和11（1936）年〕【西沢哲四郎関係文書11】

78　議事堂竣工前後の新聞記事　昭和11（1936）年11月3日、12月3日

貴族院に勤務していた近藤英明旧蔵のスクラップブック。議事堂竣工後、議員会館や議会図書館の新築も報じられたが、その実現は戦後を待つ。

新聞切抜（議会関係）〔昭和11（1936）年〕【近藤英明関係文書28】

79　議事堂の図面

展示箇所は、正面の中央塔部分にあたる図面。中央塔の高さは65.45m。この報告書は、竣工当時の議事堂の建築過程や図面、写真を収録した貴重な資料集となっている。

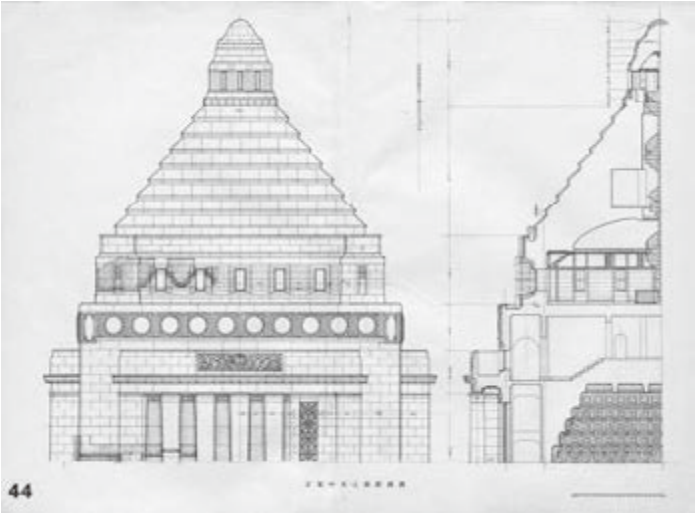
「本館中央塔平面図」『帝国議会議事堂建築報告書〔附図〕』
〔大蔵省〕営繕管財局編　営繕管財局　昭和13（1938）年【758-145】デジ送信

80　ポスター「帝国議会議事堂竣功記念　郵便切手　郵便葉書」→口絵

昭和11（1936）年

竣功式が行われる11月7日に合わせ、記念切手と葉書が発売されることを宣伝している。切手は新築の議事堂の正面全景と、帝室階段より望む便殿（天皇・皇族の休憩のために設けられた部屋）の2種類の図柄が作成された。

帝国議会議事堂竣功記念　郵便切手郵便葉書　十一月七日より発売
昭和11（1936）年【岡田ポスターコレクション4-8】



79　本館中央塔平面図

81　銅像除幕式での衆議院議長式辞　昭和13（1938）年2月10日

議事堂中央広間に設置された伊藤博文・大隈重信・板垣退助の銅像の除幕式は、憲法発布50周年記念式典の前日に行われた。小山松寿（しょうじゅ）衆議院議長の式辞の後には、それぞれの孫や曽孫にあたる3人の少女たちが女子学習院の制服姿で除幕の綱を引いた。

衆議院議長祝辞（伊藤博文公・大隈重信侯・板垣退助伯の銅像除幕式）
〔昭和13（1938）年2月10日〕【小山松寿関係文書5284】　＊令和元年8月23日公開

82　銅像の3名（伊藤博文・大隈重信・板垣退助）の会談記録
明治31（1898）年6月25日

日本初の政党内閣である第1次大隈重信内閣成立（6月30日）の契機となった会談記録。政府による地租増徴案に反発した自由党と進歩党は6月22日に憲政党を結成し、第3次伊藤博文内閣は退陣に至った。展示箇所は、薩長の党派は最早実利なく議会の党派と同日に語ることはできない、とする伊藤に対し、大隈が同意するところ。

伊藤・大隈・板垣会見録
明治31（1898）年6月【伊東巳代治関係文書 書類の部350】史料 デジ　＊令和元年8月23日公開

83　議事堂の銅像になった政治家、板垣退助の遺言　大正8（1919）年7月13日

自由民権運動を率いた板垣は、授爵の要請を受けるも、特権階級である華族となることを再三固辞した。結局は天皇の恩命を断ることができずに伯爵となったが、のちに一代華族論を主張し、「襲爵ヲ願出ルコトヲ許サス」と遺書の第1条にもその主張を反映させた。

板垣退助遺言書謄本並覚　大正8（1919）年7月【龍野周一郎関係文書311-1】

84　伊藤博文、もう一つの銅像　昭和11（1936）年9月

議事堂中央広間の伊藤像より2年早く、議事堂の外苑には台座を含めて高さ約11メートルの伊藤像が建立された。春畝（しゅんぽ）（伊藤博文の雅号）公追頌会により建てられたもので、伊藤が初代議長を務めた貴族院に寄贈された。展示資料は、除幕式に招待された枢密院議長平沼騏一郎に届いたものである。

伊藤博文公銅像建設に関する一件書類　昭和11（1936）年9月【平沼騏一郎関係文書1696】

第5章　議会の危機の時代

男子の普通選挙が導入され国民の政治参加が広がるも、社会にはその後の政党間の政争への不信や政府の大陸政策、経済対策などへの不満が蓄積していった。五・一五事件（昭和7（1932）年）、二・二六事件（昭和11（1936）年）を経て、軍部の政治への影響力が増大、議会政治は変容し、危機の時代を迎える。各党は、近衛新体制運動の流れに棹さして合流した。大陸から太平洋に戦線が拡大し、最終的には、日本本土も空襲にさらされ、議事堂も被弾した。

85　五・一五事件後、首相選定の要点メモ　→口絵　昭和7（1932）年5月19日

犬養毅首相は海軍青年将校らに暗殺された。展示資料は、事件後、内閣に関する昭和天皇の意向を鈴木貫太郎侍従長から伝えられた元老西園寺公望が書いたメモ。5月22日、西園寺は斎藤実（まこと）海軍大将を次期首相に奏請した。挙国一致内閣が組織され、政党内閣は終焉を迎えた。のちに斎藤は二・二六事件で凶弾に斃（たお）れる。

〔西園寺公望覚書〕〔昭和7（1932）年〕【原田熊雄関係文書18】史料

86　二・二六事件と軍部の台頭　昭和11（1936）年2月26日

展示資料は、事件当日に宮中で開催された軍事参議官会議で、決起将校たちに同情的な荒木貞夫・真崎甚三郎などにより鎮撫・原隊復帰を目的として作成されたもの。将校たちに伝達される途中で字句が変わるなど混乱を招いた。昭和7年の五・一五事件により政党内閣が終焉を迎え、この二・二六事件により軍部の発言力が更に増すこととなった。

陸軍大臣告示　〔昭和11（1936）年2月26日〕【河野司収集文書2】史料

87　建築中の帝国議会議事堂での安藤輝三陸軍大尉　昭和11（1936）年2月27日

日本政治を揺るがした二・二六事件の主要人物の一人である安藤輝三陸軍大尉は、26日早朝に、鈴木貫太郎侍従長を襲撃した。その後三宅坂に移り、翌日には竣工前の議事堂にいた。写真には「中庭で撮影」と記載。

写真（安藤輝三）
〔昭和11（1936）年2月27日〕【安藤輝三関係文書82-11】　＊令和元年11月13日公開

88　国家総動員法への危惧を近衛文麿首相に申し入れ

昭和 13（1938）年 2 月 16 日

第 73 回帝国議会に提出される予定であった国家総動員法案の審議は、紛糾が予想されていた。立憲政友会の長老である国粋主義者の小川平吉は当時政界を引退していたが、懇意であった近衛文麿首相に、同法が内閣の命取りになると警告した。

日誌二　戊寅一月起　昭和 13（1938）年【小川平吉関係文書 506】

89　衆議院本会議での斎藤隆夫「反軍演説」削除

昭和 15（1940）年 2 月

2 月 2 日、立憲民政党の斎藤隆夫は、代表質問で日中戦争の処理につき米内光政首相を追及した。陸軍などがこれに憤慨したため、小山松寿衆議院議長が演説の後半を職権で削除した。斎藤は懲罰委員会に付され、周囲からの議員辞職勧告を拒否するも、3 月 7 日の本会議で除名処分が議決された。

斎藤隆夫演説削除問題資料　斎藤演説削除部分〔昭和 15（1940）年〕【大木操関係文書 45-5】史料

90　大政翼賛へ、政党の解散の動向

昭和 15（1940）年 7 月 14 日

近衛文麿は、昭和 15 年 6 月に枢密院議長を辞任し、新体制運動への声明を行った。それを受けて 7 月に各政党は解散し始めた。近衛の側近として大政翼賛会の設立に関わった有馬頼寧（よりやす）は、解散していなかった立憲民政党も大政翼賛会へ「いよいよ参加の雲行」と日記に記す。同党は実際には 8 月に解散した。

日記　昭和 13 年 1 月 1 日～昭和 15 年 12 月 31 日【有馬頼寧関係文書（その 1）98-9】

91　大政翼賛会実践要綱

昭和 15（1940）年 12 月 14 日

昭和 15 年 7 月に第 2 次近衛内閣が成立し、一大強力政党の実現を目指す近衛新体制運動の成果として 10 月 12 日に大政翼賛会が発足した。しかし、様々な政治勢力が合流したことから、その運営は難航した。展示資料の大政翼賛会実践要綱が発表されたのは、発足後 2 か月経ってからであった。

大政翼賛会実践要綱【中原謹司関係文書 81】史料

92　米英と開戦

昭和 16（1941）年 12 月 8 日

昭和 9 年に対中国問題で「天羽声明」を発したことで歴史に名をとどめる天羽英二（あもう）前外務次官は、同い年の外交官である重光葵（まもる）からの電話で戦闘開始を知った。緒戦の勝利をラジオで聞くも、その先行きを懸念している。

日記　昭和 16（1941）年【天羽英二関係文書 34】

93　翼賛選挙の準備―翼賛選挙徹底運動基本要綱（案）―

昭和 17（1942）年 1 月 23 日

4 月 30 日に予定された衆議院議員総選挙を遂行するために、内務省から司法省に提示された案。2 月に閣議決定され「翼賛選挙貫徹運動基本要綱」となる。この選挙で翼賛政治体制協議会から推薦を受けた候補者が当選者全体の 8 割以上を占め、翼賛政治体制が確立した。

衆議院議員総選挙対策

昭和 17（1942）年 2 月【太田耐造関係文書 89-53】　＊平成 29 年 2 月 28 日公開

94　議事堂を空襲から守れ

昭和 19（1944）年 8 月 14 日、昭和 20（1945）年 5 月 25 日

昭和 19 年夏、米軍はマリアナ諸島を確保し、日本は B29 爆撃機の爆撃圏内に入った。大木操衆議院書記官長は、8 月 14 日に空襲対策として議事堂の迷彩研究を熊谷憲一防空総本部次長に依頼。翌年 5 月 25 日に議事堂が被弾し、大木を含めて職員がその消火に尽力している。

大木書記官長日誌

昭和 19（1944）年 8 月 14 日～ 9 月 2 日【大木操関係文書 204-4】デジ

昭和 19（1944）年 11 月 18 日～ 20（1945）年 1 月 17 日【大木操関係文書 204-6】デジ

昭和 20（1945）年 5 月 16 日～ 7 月 14 日【大木操関係文書 204-11】史料 デジ

95　空襲警報メモ

昭和 20（1945）年 5 月 25 ～ 26 日

5 月 25 日から翌日にかけて、東京は大規模な空襲にさらされ、議事堂も被害を受けた。展示資料には、午後 10 時 23 分の空襲警報発令、B29 爆撃機 300 機の来襲、空襲警報解除は午前 1 時であったことが記されている。空襲警報メモは、東京が空襲に見舞われた昭和 19 年 11 月 24 日から昭和 20 年 8 月 17 日までつけていたものである。

空襲警報メモ【大木操関係文書 81】

96　翼賛議会批判の米軍投下ビラ　　昭和 20（1945）年頃

大木操衆議院書記官長が所有していたものである。昭和 12 年の衆議院議員選挙において、軍部に無関係の議員が多数当選していたにもかかわらず、軍部が権力を握るために日中戦争を起こしたとし、国民の自由のためには、軍閥の敗北が必要と記している。

〔米軍投下ビラ〕【大木操関係文書 84】

パネル

97　議事堂の空襲記録　　昭和 20（1945）年 5 月 25 ～ 26 日

5 月 25 日夜から翌 26 日未明にかけて、議事堂は B29 爆撃機による空襲を受け、被弾した。米国の第 21 爆撃軍団が作成したこの報告書では、当日の天候、爆撃目標、飛行ルートとともに、議事堂周辺が空襲による被害を受けたことが地図上で示されている。

〔No. 183, Tokyo, 25 May 1945. Report No. 2-b(40), USSBS Index; Section 7〕
〔昭和 20（1945）年 5 ～ 7 月〕
【米国国立公文書館所蔵 米国戦略爆撃調査団文書】デジ

98　戦争の終結への記録　　昭和 20（1945）年 8 月

海軍の高木惣吉は、情報将校として情報の整理にカードを用いていた。昭和 19 年 9 月以降、井上成美（しげよし）海軍次官により戦争終結の工作を命じられてこれに従事し、政府要人の会談記録や戦況などの情報を記している。

カード資料【高木惣吉関係文書 44-1】

99　玉音放送　　昭和 20（1945）年 8 月 15 日

貴族院書記官長である小林次郎には、7 月以降貴族院議員経由で様々な情報が集まっており、8 月 10 日にはポツダム宣言受諾の話を知っていた。この日は登院後、ラジオで昭和天皇の放送を聞き「恐懼に堪えず、戦争責任者は自責に不堪べし」と日記に記している。

日誌　昭和 20（1945）年【小林次郎関係文書 1】デジ

第 6 章　帝国議会から国会へ

戦後、連合国軍による占領が始まった。政党も復活し、新たに制定された日本国憲法では国会が「国権の最高機関であって、国の唯一の立法機関」と定められた。議会の審議については、それまでの本会議中心主義から委員会での審査を中心とする委員会中心主義となり、委員会が増加した。同時に、衆参両院の法制局と国立国会図書館が設置され、立法機能の強化が行われた。昭和 27（1952）年 4 月 28 日、前年に締結したサンフランシスコ平和条約が発効し、日本は主権を回復するとともに国際社会に復帰した。

100　国民総ざんげ　　昭和 20（1945）年 9 月 1 日

臨時閣議に提出された第 88 回帝国議会における東久邇宮稔彦（ひがしくにのみやなるひこ）首相による施政方針演説の案。同首相がかねて表明していた国民総ざんげがこの中でも述べられている。ほぼそのまま了承され、9 月 5 日に貴衆両院で演説が行われた。

昭和二十年九月一日臨時閣議文書【小畑敏四郎関係文書 231】　＊平成 29 年 9 月 18 日公開

101　政党の再建・復活　　昭和 20（1945）年 8 ～ 12 月

戦後、かつて解散・統合されていた政党の再結成などの活動が始まった。

戦前の立憲政友会につながる鳩山一郎らは日本自由党を結成し、翼賛体制主流派であった大日本政治会の多数派は鶴見祐輔らを中心に日本進歩党を形成し、戦前の無産政党及び社会主義各派は日本社会党に集まり、戦前は非合法であった日本共産党も『赤旗』を再刊するなど、各々政治活動を始めた。

新日本自由党結成準備記録　昭和 20（1945）年 8 月 23 日【安藤正純関係文書 12】史料
赤旗　第 1 号　1945 年 10 月 20 日【憲政資料室収集文書 1340-1】史料
宣言「日本社会党結党大会関係書類」　昭和 20（1945）年 11 月 2 日
【浅沼稲次郎関係文書（その 1）419】史料
進歩党の政策大綱　昭和 20 年 12 月【鶴見祐輔関係文書 238】史料

102　占領下の開院式勅語　　昭和 20（1945）年 11 月

第 89 回帝国議会の開院式（11 月 27 日）での勅語の草案。貴族院事務局に残されていたものと考えられる。そこに記されている「連合国最高司令部ト帝国トノ連絡円滑ニ行ハ

レ諸般ノ改革日ヲ逐ウテ進ム朕深ク之ヲ欣フ」の一文は、実際には日の目を見なかった。

「勅語　奉答文案」所収　昭和 20（1945）年 11 月【近藤英明関係文書 8】

103　日本国憲法の「マッカーサー草案」　昭和 21（1946）年 2 月 12 日

連合国最高司令官総司令部（GHQ/SCAP）が作成し、マッカーサー最高司令官の承認を経て日本政府に提示された日本国憲法の草案。米海軍中佐ハッシーは、入隊前の弁護士や裁判官としての経験から起草時に中心的な役割を果たし、日本国憲法制定過程に関する GHQ 側の記録を手元に残した。

Constitution of Japan（1946）

【Alfred Hussey Papers; Constitution File No. 1, Doc. No. 12】憲法

104　女性も投票を―選挙の呼び掛け―　昭和 21（1946）年

4 月 10 日に衆議院議員総選挙が行われた。前年 12 月 17 日の選挙法改正により、投票権がそれまでの 25 歳以上の男性のみから、20 歳以上の男性と女性に広がった後の初めての選挙であった。女性作家の生田花世の文章を使った選挙ポスターも、女性の投票を呼び掛けている。

〔戦後第一回総選挙ポスター〕〔昭和 21（1946）年〕【憲政資料室収集文書 1277】史料 デジ

105　議会運営の感想　昭和 21（1946）年 8 月 22 日

第 1 次吉田茂内閣の大蔵大臣となった石橋湛山は、第 90 回帝国議会の本会議の進行を目の当たりにした。明治以来の旧態依然とした慣例が続いており検討が必要との感想を抱いた。

石橋湛山日記　昭和 21（1946）年【個人蔵】

106 「日本国憲法公布記念式典」挙行　昭和 21（1946）年 11 月 3 日

貴族院議場で行われた「日本国憲法公布記念式典」に関する資料綴り。招待状、式次第、議場内の配置図、勅語奉答文案などが残されている。展示資料の旧蔵者である近藤英明は、貴族院の書記官として式典の運営に携わった。後年、参議院事務総長となる。

日本国憲法公布記念式典関係　昭和二十一年十一月三日【近藤英明関係文書 257】

パネル

107　終戦直後の「黒っぽい」議事堂　昭和 21（1946）年～昭和 22（1947）年

戦後、日本占領期に撮影された、壁の一部が黒塗り（空襲対策の迷彩の残りと推測される）の議事堂。GHQ 文民スタッフだったモージャー（Robert V. Mosier）が、日本滞在中に、全国各地の街頭風景や建築物をカラーで撮影したうちの 1 枚。

国会議事堂とスクールバス（東京都）

【モージャー氏撮影写真資料】デジ　＊平成 24 年 7 月 3 日公開

108　議事堂のクリーニング　昭和 22（1947）年 5 月

日本国憲法下で初となる第 1 回国会（特別会）の召集（5 月 20 日）を挟んで、約 1 か月にわたり議事堂のクリーニングが行われた。費用は約 50 万円（今の金額に換算すると約 1,000 万円弱）で、貴族院と衆議院両院の書記官長が協議したことに触れている。

議事堂のクリーニング（メモ）　昭和 22（1947）年 5 月【小林次郎関係文書 8】

109　議院法から国会法へ　昭和 21（1946）年

6 月 18 日に衆議院各派交渉会は、議院法規調査委員会の設置を決定し、同委員会は、展示資料の「新憲法ニ基キ議院法ニ規定スル事項」を素材として検討を進め、8 月 30 日に国会法案要綱を決定した。国会法は、その後 GHQ との折衝を経て起草された法案が第 92 回帝国議会を通過し、日本国憲法と同じ昭和 22 年 5 月 3 日から施行された。

新憲法ニ基キ議院法ニ規定スル事項〔昭和 21（1946）年〕【西沢哲四郎関係文書 251-2】憲法

110　国会へのリファレンス―国立国会図書館の設置―　昭和 23（1948）年 2 月 4 日

立法機能の強化の一環として国立国会図書館が設置された。設置法案の審議過程でカタカナ語が漢語に置き換えられた。例えば調査及び立法リファレンス局の「リファレンス」は「考査」となった。浅沼稲次郎衆議院議院運営委員長は耳に頼って「工作」と書き込んだようである。

〔衆議院議院運営委員会関係書類綴〕

昭和 23（1948）年 1 月～昭和 23 年 3 月【浅沼稲次郎関係文書（その 2）438】

111　新しい建物が続々と

昭和 20 年代前半

国会法により衆参両院にそれぞれ 20 を超える常任委員会が設置されたことから、専用の庁舎が建築された。また、帝国議会時代にはなかった議員会館及び議員宿舎も設けられた。展示資料は、昭和 24（1949）年 3 月に竣工した衆議院常任委員会庁舎の下図（推定）及び翌年 10 月に竣工した衆議院九段議員宿舎の配置図（青焼き）。

〔衆議院委員会庁舎平面図〕、第二議員宿舎配置図【西沢哲四郎関係文書 1100-2】

112　全国区当選御礼

昭和 22（1947）年

貴族院が廃止され、新たに設置された参議院の第 1 回選挙は 4 月 20 日に実施された。政治学者で評論家の佐々弘雄は全国区で立候補し、当選した。参議院では、緑風会（保守系の無所属議員の会派）に参加した。展示資料は、ポスターの原図と「当選御礼」と朱字で記入したもの。

〔参議院選挙ポスター　佐々弘雄　3 種〕

〔昭和 22（1947）年〕【佐々弘雄関係文書 534-1】　＊令和元年 6 月 18 日公開

パネル

113　検閲を受けた第 5 回特別会報告書

昭和 24（1949）年

開会式次第や座席配置図、演説原稿などの議事運営に関する資料のほか、委員会制度の紹介や新聞による閣僚評など、幅広い情報を含んでいる。占領期の出版物は GHQ の検閲を受け、その多くが「プランゲ文庫」として米国メリーランド大学に残されている。

『國會讀本』參議院民主自由黨政務調査會

〔昭和 24（1949）年〕【米国メリーランド大学所蔵 プランゲ文庫】デジ送信

114　警察予備隊創設へのマッカーサー最高司令官書簡

昭和 25（1950）年 7 月 8 日

昭和 25 年 6 月に朝鮮戦争が勃発し、在日米軍も多数派遣される中、マッカーサーから、75,000 名の国家警察予備隊設置と海上保安庁の 8,000 名の増員を認める書簡が吉田茂首相に送られた。展示資料は、佐藤達夫法務府法制意見長官の旧蔵で「制令を希望」「中央直属」との書き込みがある。

マッカーサー最高司令官書簡（写）　昭和 25（1950）年 7 月 8 日【佐藤達夫関係文書 2040】

115　サンフランシスコ平和条約締結の記録

昭和 26（1951）年 9 月

吉田茂首相の秘書である安斎正助のサンフランシスコ平和条約締結のための外遊時の記録である。展示資料によると、9 月 4 日から 8 日までの講和会議中、7 日に平和条約受諾演説を終えた吉田首相は、その日の夜に腹痛を起こし心配されたが 1 時間ほどで回復、安眠したと記されている。

昭和 26 年サンフランシスコ講和条約、昭和 29 年世界一周訪問旅行

昭和 26（1951）年【安斎正助関係文書 34】

116　平和条約・日米安全保障条約に対する態度をどうするか（日本社会党）

昭和 26（1951）年 10 月

日本社会党内では、両条約とも反対の左派と平和条約賛成・安保条約反対の右派・中間派の対立が激化していた。中間派の浅沼稲次郎書記長は、保守陣営に対抗するため、党の統一性を主張した。しかし、10 月 23 日からの臨時党大会でも意見は一致せず、同党は左右二派に分裂した。

講和安保両条約に対する態度決定について

昭和 26（1951）年 10 月【浅沼稲次郎関係文書（その 1）2325】史料

117　平和条約及び日米安全保障条約特別委員会における芦田均と吉田茂首相の論戦

昭和 26（1951）年 10 月 18 日

再軍備について一家言持つ芦田均元首相が、平和条約の範囲、自衛権や再軍備について、衆議院で吉田首相を鋭く追及した。日記には直前までの準備と質問後の安堵感を記し、論戦を報道する切り抜き記事も貼っている。

日誌　昭和 26（1951）年【芦田均関係文書（寄託）書類の部 15】

118　国会法の大きな変化

昭和 30（1955）年 1 月

第 21 回国会において国会法に重要な改正が加えられた。省庁別に過度に細分化されていた常任委員会の整理統合、議員発議の際に一定数の賛成者を必要とする要件の追加、自由討議の廃止など、個々の議員の国会活動に制約を加えつつ、効率的な国会運営を目指すものであった。

国会法改正資料　昭和 30（1955）年 1 月【西沢哲四郎関係文書 289】

第7章　55年体制の成立と展開

昭和30（1955）年、日本社会党の再統一、保守合同による自由民主党の結成により、2大政党対立の図式（いわゆる55年体制）が成立した。この時期は、様々な法案･議案をめぐって「乱闘国会」と呼ばれるほど与野党が激しく対立し、その収束のため幾度も「国会正常化」の試みがなされた時期でもある。55年体制の成立とその後の政治動向や国会の動きを、当時の国会議員、政党、議院事務局職員が作成した資料などから紹介する。

119　左右日本社会党の統一　昭和30（1955）年

汚職事件で求心力が低迷していた吉田茂に代わって日本民主党の鳩山一郎が組閣すると、新しいリーダーへの期待から国民の間で「鳩山ブーム」が沸き起こった。間近に総選挙を控える中、左右各派に分裂していた日本社会党（資料116参照）はこの状況に危機感を覚え、再統一への動きが活発化、昭和30年10月13日に再統一が実現した。

日本社会党統一大会資料 日本社会党綱領・運動方針・政策大綱・日本社会党規約
〔昭和30（1955）年〕【藤牧新平関係文書31】史料

120　保守合同実現、自由民主党の誕生　昭和30（1955）年11月15日

保守合同の試みは吉田内閣時代からあったが、日本社会党の再統一の動きがそれを活発化させた。2月に実施された衆議院議員総選挙における左派社会党の躍進に警戒感を抱く財界の後押しも受けて自由党・日本民主党の協議が進められ、日本社会党再統一の1か月後、自由民主党が結成された。

新党結成大会議案　昭和30（1955）年11月15日【芦田均関係文書（寄託）書類の部415】史料

121　民主社会党結成　昭和35（1960）年1月

日本社会党は昭和30年に再統一するも、日米安全保障条約改定などをめぐる党内対立から、西尾末広らの右派が昭和34年に離党し、翌年に民主社会党（のちの民社党）を結成した。

民主社会党暫定綱領案
「綱領問題 渡辺」（「民主社会党暫定規約（案）」等）【民社党国際局旧蔵資料313】史料

122　浅沼稲次郎、日本社会党委員長に就任　昭和35（1960）年3月

昭和35年3月に浅沼稲次郎が日本社会党委員長に就任した。展示資料は、就任時の演説内容で、党内の団結、新日米安全保障条約の締結阻止などが示されている。浅沼は委員長として精力的に活動したが、同年10月、日比谷公会堂での演説中に刺殺されることとなる（資料127参照）。

〔浅沼委員長談話関連資料〕
〔1960年3月23日以降〕【浅沼稲次郎関係文書（その3）7422】　＊令和元年10月7日公開

123　公職選挙法改正をめぐる混乱と衆議院議長によるあっせん　昭和31（1956）年5月1日

昭和31年5月1日、益谷秀次（ますたにしゅうじ）衆議院議長は、与野党対立の原因となった小選挙区制法案を委員会に差し戻すとともに、話合いによる政治の重要性を記した議長談話を発表した。交渉決裂を前提に書かれた草案が、与野党の合意を受けて修正されているのが分かる。

議長談話（草案）　昭和31（1956）年5月1日【鈴木隆夫関係文書48-15】史料

124　警職法改正案をめぐる与野党対立　→口絵　昭和33（1958）年

昭和33年11月4日、与野党対立の続いていた警察官職務執行法（警職法）改正案の審議のため、自由民主党は会期延長を強行採決した。これに対し日本社会党は、会期延長が無効であると宣言するよう鈴木隆夫衆議院事務総長に求めた。その後、自社両党首の会談により同法案は廃案となった。

議事運営に関する社会党要求　昭和33（1958）年11月4日【鈴木隆夫関係文書59-2】史料

125　新安保条約をめぐる与野党対立の中、議事堂内に警官隊を導入　昭和35（1960）年5月19日

昭和30年代前半に衆議院事務総長を務めた鈴木隆夫は、国会での日々の動向を日誌に綴っていた。展示箇所には、会期延長と新日米安全保障条約の批准をめぐる与野党対立の中、警官隊の派遣要請から議事堂への導入、退出に至る状況が、時刻とともに簡潔に記されている。

〔総長所感日誌〕　昭和35（1960）年2月～5月【鈴木隆夫関係文書27】史料 デジ

126　各党が国会正常化に関する基本方針を提出　　昭和 37（1962）年 1 ～ 2 月

昭和 36 年 9 月に召集された第 39 回国会で、与野党は「国会正常化に関する申合せ」を取り決め、これに基づいて翌昭和 37 年 1 月から 2 月にかけて、自由民主党、日本社会党、民主社会党の各党は国会正常化に関する基本方針を清瀬一郎衆議院議長に提出した。

国会正常化に関する基本方針　衆議院議長宛　自由民主党・日本社会党・民主社会党
昭和 37（1962）年 1 ～ 2 月【西沢哲四郎関係文書 883】

127　池田勇人首相による浅沼稲次郎社会党委員長追悼演説

昭和 35（1960）年 10 月 18 日

昭和 35 年 10 月 12 日、浅沼稲次郎日本社会党委員長が立会演説中に刺殺された。同月 18 日の衆議院本会議で行われた追悼演説には、池田勇人首相自らが立った。池田は浅沼の友人による詩の一節「沼は演説百姓よ　よごれた服にボロカバン」を引用し、大きな感動と反響を呼んだ。

「池田勇人君の故議員浅沼稲次郎君に対する追悼演説」（第 36 回国会衆議院会議録第 2 号その 2）
『衆議院会議録』 36 回 2 号　昭和 35(1960)年 10 月 18 日 〔衆議院事務局〕〔編〕 大蔵省印刷局【BZ-6-14】

128　自由民主党は経済重視路線へ　→ 口絵　　昭和 36（1961）年 9 月 27 日

60 年安保闘争後に首相の座に就いた池田勇人は、「寛容と忍耐」を掲げ、所得倍増論を打ち出すことで、政策目標を政治から経済に転換していった。第 39 回国会における施政方針演説の草稿に推敲を加えたのは池田政権のブレーンでエコノミストの高橋亀吉。

池田首相所信表明演説　経済の部　草稿
昭和 36（1961）年【高橋亀吉関係文書（その 1）2707】史料

129　日本社会党の「構造改革論」　　昭和 35（1960）年 10 月

日本社会党の江田三郎書記長は、昭和 35 年 10 月に「構造改革論」を発表し、産業化社会における新しい社会主義の在り方を示した。同党で政策審議会長などの役職を歴任した勝間田清一（かつまたせいいち）は、構造改革論には池田内閣の経済優先政策に対抗する意図があったと証言している。

昭和 62（1987）年 11 月 18 日述【勝間田清一政治談話速記録】

130　公明党の躍進、野党の多党化が進む　　昭和 40（1965）年

公明党は創価学会を支持母体に結成された中道政党。初の選挙戦となった昭和 40 年の参院選で 11 名を当選させた。続く昭和 42 年の衆院選では、野党第 1 党の日本社会党の獲得議席が伸び悩む一方、公明党や民主社会党、日本共産党が都市部の票を集めて議席を伸ばし、多党化が進行した。

「公明党は躍進する　参院選の大勝利めざして」『公明』32 号
昭和 40（1965）年 5 月　公明機関紙局【Z1-22】デジ送信

131　参議院改革の端緒―河野謙三議長の誕生―　　昭和 46（1971）年 7 月 7 日

第 9 回参議院議員通常選挙終了後の昭和 46 年 7 月 7 日、河野謙三議員は、参議院の現状に対する憂慮や正副議長の党籍離脱など様々な提言を記した書簡を全議員に送付した。同月 17 日、野党議員の支持も得て、河野は参議院議長に選出された。

選挙を終って　昭和 46（1971）年 7 月 7 日【羽生三七関係文書（所蔵）35-9】

132　参議院改革に関する提言　　昭和 46（1971）年 9 月 23 日

河野謙三参議院議長の私的諮問機関である「参議院問題懇談会」は、「参議院運営の改革に関する意見書」を答申した。この中には、正副議長の党籍離脱、通常国会（常会）の 1 月召集、参議院先議案件の増加、決算審査の重視など多岐にわたる提言が盛り込まれた。

参議院運営の改革に関する意見書　昭和 46（1971）年 9 月 23 日【西沢哲四郎関係文書 964】

133　参議院自由民主党による参議院選挙制度の改革案　　昭和 53（1978）年

昭和 53 年に、参議院会派の自由民主党・自由国民会議は参議院の選挙制度の改革案をとりまとめた。全国区制の改善方法として、拘束名簿式比例代表制を最有力としている。昭和 57 年 8 月、第 96 回国会において公職選挙法が改正され、この方式が採用された。

参議院選挙制度の改正について
昭和 52（1977）年～ 53（1978）年【奥野誠亮関係文書 3-36】　＊平成 26 年 7 月 7 日公開

第 8 章　多党化の時代へ

時代が進むにつれ、自由民主党、日本社会党の絶対得票率が低下し、新党の結成などもあいまって多党化が進行していった。消費税導入後の平成元（1989）年 7 月、参議院議員通常選挙で日本社会党が大きく議席を伸ばし自由民主党が参議院で過半数を割り込んだことから、いわゆる「ねじれ国会」となり、平成 5（1993）年には細川政権が成立し自由民主党が結党後初めて野党となるなど、大きな動きがあった。こうした 55 年体制の動揺期以降の政治動向について紹介する。

134　副総裁の裁定により三木政権誕生　　昭和 49（1974）年 12 月

昭和 49 年 11 月、参院選の低迷や閣僚の辞任などで窮地に陥った田中角栄首相は、椎名悦三郎自由民主党副総裁に辞任の意向を伝え、事後収拾を託した。椎名は 12 月 1 日、総裁後継と目されていた大平正芳・福田赳夫ではなく三木武夫を推挙し、三木政権が誕生した。

椎名裁定の際のメモ、椎名裁定案（コピー）
〔昭和 49（1974）年 12 月〕【椎名悦三郎関係文書 79・80】

135　河野洋平ら、自由民主党を離党し新党結成　→ 口絵

昭和 51（1976）年 7 月 7 日

三木政権下でロッキード事件が明るみに出るとともに自由民主党内での派閥争いが激化すると、河野洋平、西岡武夫、田川誠一らが離党、腐敗と決別し新しい保守主義を創造するとして新自由クラブを結成した。

我々の基本理念 新しい自由社会を創るために
昭和 51（1976）年 9 月 30 日【大中睦夫関係文書（新自由クラブ関係）183】
新自由クラブ徽章、腕章、ペナント【新自由クラブ関係文書 114】

136　日本社会党から離脱の江田、社市連結成へ　　昭和 52（1977）年 3 月 26 日

日本社会党右派の江田三郎は、「革新・中道連合政権」構想などで左派と路線対立、派閥争いの末、昭和 52 年に離党し、社会市民連合（社市連）を立ち上げた。江田は同年に急死する。

離党にあたって　昭和 52（1977）年 3 月 26 日【羽生三七関係文書（所蔵）217-8】

137　社会民主連合結成、野党共闘を模索　　昭和 53（1978）年 3 月 26 日

社会市民連合は、日本社会党から離脱した田英夫らと合流して社会民主連合（社民連）を結成する。社民連は非自民・非共産の野党共闘を模索した。

市民の革新政党をめざして　昭和 53（1978）年 3 月 26 日【憲政資料室収集文書 1327】

138　新自由クラブのポスター　　昭和 52（1977）年頃

新自由クラブ選挙用党候補者顔ポスター【新自由クラブ関係文書ポスター 1-1】

139　新自由クラブ、大平総裁に首班指名で協力　　昭和 54（1979）年 11 月 4 日

昭和 54 年の衆議院総選挙で敗北した自由民主党では、大平正芳総裁の続投をめぐる深刻な派閥対立が生じていた。新自由クラブは政策合意と引換えに大平の首班指名選挙に協力する合意を結んだが、これは党内外から批判を招き、河野洋平は代表を辞任した。

合意書　昭和 54（1979）年 11 月 4 日【田川誠一関係文書 174】　＊平成 30 年 7 月 27 日公開

140　大平内閣不信任決議案が可決、解散総選挙へ　　昭和 55（1980）年 5 月

昭和 55 年 5 月 16 日、日本社会党が衆議院本会議に内閣不信任決議案を提出すると自由民主党反大平派は採決を欠席、決議案が可決された。それを受けて大平正芳首相は衆議院を解散、衆参ダブル選挙に臨んだが、選挙中に病のため急死する。

大平正芳演説文〔昭和 55（1980）年 5 月〕【大平正芳関係文書 1643】　＊平成 30 年 10 月 26 日公開
〔アルバム〕【大平正芳関係文書 4311】　＊平成 30 年 10 月 26 日公開

141　自由民主党、新自由クラブと連立政権樹立の合意

昭和 58（1983）年 12 月 26 日

中曽根康弘総裁率いる自由民主党は、直前の第 37 回衆議院議員総選挙で、田中角栄元首相のロッキード事件有罪判決という逆風の中 250 議席と低迷し、新自由クラブとの連立政権を組んだ。昭和 30（1955）年から平成 5（1993）年の自民党政権にあって唯一の連立政権となった。

政策合意書　昭和 58（1983）年 12 月 26 日【新自由クラブ関係文書 6-21】

142　新自由クラブは解散、田川は進歩党結成　　昭和62（1987）年1月22日

昭和61年の第38回衆議院議員総選挙で自由民主党が圧勝し、同党の単独政権になると、新自由クラブは解散して党員の大多数が自民党に合流した。元代表田川誠一は復党せず、翌年進歩党を結成し、のちに社会民主連合と統一会派を組んだ。

進歩党結成大会代表あいさつ全文　草の根自由主義で行こう
昭和62（1987）年1月22日【田川誠一関係文書179】　＊平成30年7月27日公開

143　新党ブーム起こる　　平成4（1992）年5月

前熊本県知事の細川護熙（もりひろ）は既存政治の刷新を掲げ、平成4年に日本新党を結成し、翌年挑んだ衆議院議員総選挙では35名を当選させた。同党はこの後に続く新党ブームの嚆矢（こうし）となった。

『日本新党コムネット』平成5（1993）年1月　日本新党編【Z1-567】

144　政界再編の進展　　平成5（1993）年6月

平成5年6月、東京佐川急便事件が発覚するなど政治不信が高まる中、政治改革を訴える武村正義、田中秀征、鳩山由紀夫らが自由民主党を離党して新党さきがけを結成した。また、同じく自民党から離脱した羽田孜（つとむ）らが新生党を結成するなど、政界再編の動きが加速した。こののち、7月の総選挙を経て、日本新党、日本社会党、新生党、公明党、民社党、新党さきがけ、社会民主連合に、参議院院内会派の民主改革連合を加えた8党派による連立政権が実現した。

『さきがけ白書1993-1997』平成9（1997）年6月　新党さきがけ【A56-Z-G84】

145　第127回（特別）国会　衆議院議員議席表

『衆議院公報』第127回国会　第10号（平成5年8月20日）附録【BZ-3-13】

146　小選挙区比例代表並立制導入と新進党結成　　平成6（1994）年12月10日

平成6年6月、自由民主党、日本社会党、新党さきがけによる村山富市内閣の成立で下野した日本新党、新生党、公明党、民社党などは、衆議院の新選挙制度の開始を前に214名の国会議員を擁する新進党を結成した。初代党首は元首相海部俊樹であった。

戦後政党大会関係資料　新進党　平成6（1994）年12月10日【憲政資料室収集文書1339】

147　自自公から自公保へ　　平成12（2000）年4月

平成9年、新進党が解散してできた6政党の一つ自由党は自由民主党、公明党と政権を担ったが、平成12年4月に離脱する。その際、一部の党員は保守党を結成し政権に残った。中央の写真は、その翌年、参議院選挙の際のテレビCMに登場した初代党首扇千景。

『保守党』保守党、平成13（2001）年6月【Z85-1399】

148　特徴的な議員立法　党議拘束を外して議決された例　―臓器移植法―
平成8（1996）年～平成9（1997）年

平成8年から翌年にかけて、臓器移植に関する法案が、立場を異にする議員から各々提出された。これらの審議・採決に際しては、議員個人の生命観や倫理観に深く関わるとして、多くの政党が党議拘束を外した。展示資料は、衆議院通過後に参議院での修正等を経て成立した臓器移植法の参議院からの回付案（赤字部分が参議院による修正箇所）。

臓器の移植に関する法律案（第139回国会衆法第12号）
平成9（1997）年【衆議院事務局所蔵】

149　特徴的な議員立法　野党提出の議員立法が制度創設の嚆矢となった例
―育児休業法―

昭和42（1967）年に参議院の野党議員が提出した「女子教育職員育児休暇法案」は、のちに与野党共同提出の議員立法により、看護師などにまで対象を拡大した形で成立した。これは、やがて全ての労働者を対象とする育児休業法制へとつながった。

女子教育職員育児休暇法案（第55回国会参法第1号）
昭和42（1967）年【参議院事務局所蔵】

150　党首討論の導入、政府委員制度の廃止、副大臣・大臣政務官の設置
―国会審議活性化法―　　平成11（1999）年7月30日

平成11年7月、国会議員同士の議論の活性化などを目的として、国会審議活性化法が制定された。これにより、党首討論の導入、政府委員制度（各府省の局長級以上の職員が国会答弁を行う制度）の廃止、副大臣・大臣政務官の設置が実施された。

国会審議の活性化及び政治主導の政治決定システムの確立に関する法律案
（第145回国会衆法第29号）
平成11（1999）年【衆議院事務局所蔵】

第 9 章　国民に開かれた国会へ

先人たちが苦労して作り上げた議会は、国民共有の財産である。そして、帝国議会の時代から現在に至るまで、傍聴、参観、会議録の刊行などを通じ、議会は国民に開かれたものであった。最後の章では、今昔の傍聴券や議場参観などを綴った文章に加えて、インターネットを通じた会議録の提供や国会審議の中継といった近年の取組を紹介する。

151　ピゴットアルバムから見る帝国議会の外交官用傍聴券　→ 口絵

明治 23（1890）年 12 月 17 日

第 1 回帝国議会の外交官用傍聴券。御雇外国人ピゴット（Francis Taylor Piggott）旧蔵の貼り交ぜ帖から。他にも、鹿鳴館関係など数々の招待状や名刺などがきらびやかに貼り込まれる。

ピゴットアルバム【憲政資料室収集文集 1251】

152　夏目漱石門下の物理学者が見た帝国議会

大正 12（1923）年 12 月 23 日

物理学者であり、随筆家でもある寺田寅彦は、関東大震災への対応を議論する帝国議会を傍聴した。壇上で演説する大声、議員席で立ち上がり早口に連発する短い言葉、突発する短い捨て言葉など印象に残った記憶を記録した。だが、どの発言内容も彼の頭には入らなかったらしい。日記から、傍聴日は 10 月、11 月ではなく 12 月 23 日と判明する。

寺田寅彦「議会の印象」『寺田寅彦全集』文学篇第 2 巻　岩波書店　昭和 25（1950）年【081.8-Te161t】

153　押し寄せる傍聴人

大正 14（1925）年 3 月 17 日

薬品法を改正して権限強化を目指す薬剤師たちは、議員を訪ねて同法改正運動をし、「監視」のために議会傍聴に押し寄せた。「女子参政権」や「普選」といった政治運動よりも多い人数に、漫画家岡本一平曰く「商売々々」と。

岡本一平「傍聴人比例」『一平全集』第 10 巻　先進社　昭和 5（1930）年【597-18】デジ

154　小学生向けの国会議事堂案内

昭和 30（1955）年

「イコちゃん」がバスで各地を案内する趣向。案内先は上野動物園、築地市場、水郷潮来に九州の炭鉱、さらにはテレビ放送局。国会議事堂では塔内や便殿を紹介し、「世界一りっぱ」な議事堂と説明した。

六浦光雄文・絵『イコちゃんの見学バス』B コース（社会科絵物語；6）
さ・え・ら書房　昭和 30（1955）年【児 291.09-M998i】デジ送信

国会審議のインターネット配信

平成 11（1999）年

平成 2 年から国会審議のテレビ中継が始まり、その後徐々に中継対象などが拡大していった。平成 10 年からは国会審議のインターネット配信の実験が始まり、参議院では平成 11 年 4 月から、衆議院では同年 10 月から、本格実施されている。

衆議院インターネット審議中継　http://www.shugiintv.go.jp/index.php
参議院インターネット審議中継　https://www.webtv.sangiin.go.jp/webtv/index.php

会議録のインターネット提供

平成 13（2001）年 4 月

衆議院、参議院及び国立国会図書館の合意に基づき、国会会議録のフルテキスト・データベースの構築が進められ、平成 11 年 1 月に一部が一般に提供され、平成 13 年 4 月からは第 1 回国会からの本会議及び全ての委員会の会議録が利用できるようになった。また、帝国議会については、平成 22 年 6 月以降第 1 回から第 92 回までの全会期の会議録がインターネットで利用できるようになった。

このほか、「開かれた国会」の一環として、帝国議会時代の秘密会議事速記録及び帝国憲法改正に係る小委員会の速記録又は筆記要旨が、平成 7 年から翌年にかけて相次いで公開された。

国会会議録検索システム　https://kokkai.ndl.go.jp/#/
帝国議会会議録検索システム　https://teikokugikai-i.ndl.go.jp/#/

政党ウェブサイトの収集

国立国会図書館では、インターネット上の情報（公的機関や、許諾を得られた公益法人、私立大学、国際的・文化的イベント等）を定期的に収集・保存・公開している。国政政党については、平成 27 年からウェブサイトを収集・保存・公開している。

国立国会図書館インターネット資料収集保存事業（WARP）　https://warp.ndl.go.jp/

議会開設百三十年記念議会政治展示会目録

令和 2 年 12 月 10 日発行

編集・発行

国立国会図書館

〒 100-8924　東京都千代田区永田町 1-10-1

電 話 03-3581-2331

ISBN978-4-87582-869-3

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。